

# 刻翻『春城日誌』(一〇)

— 明治四一年一月～六月 —

## 春城日誌研究会

前年暮に、高田学長、田原栄會計監督とともに市島らが練りあげた学苑の第二期發展計画を具体化する年を迎えた。この計画の柱は、開校時に設けられたが時期尚早で閉じられていた理工科の再興と、医科の創設である。一月一日に維持委員会を開催し、その計画案を協議した。大綱について、特に異論はなかったが、時節柄、基金募集に疑議が集中した。市島は日誌に「不景氣之折柄、百五十万円之大募集に着手し、成功する否やにつき、惑ふもの少からず。然れとも、兎に角大体四月より、先つ科を置くに決して散会す」と誌した。

周知のことであるが、この時の医科設置は紆余曲折の末、流産してしまう。市島は別の記録(『背水録』)に当時慶應義塾が医学部を設ける風聞があり、早稲田が出来ない計画にあらずと、維持委員会の悲觀論を鎮撫した、と誌している。

結局、早稲田が見送った医科を、慶應は大正六年に北里柴三郎を得て創設した。

理工科は、四月に予科を設け、翌年に本科を置くことで基金計画が進められるが、五月に、皇室より三万円の下賜金があり、基金活動に活氣を呼んだ。さらに理工科の設置には竹内明太郎の多大な貢献があり実現するのであるが、

彼が救世主の如く現れるのはこの直後であった。

この第二期発展計画の基金募集に、市島は基金部長を兼務し、東奔西走の活動をおこなうこととなる。その本格的な運動は、この年の後半になるが、この間も、大丸百貨店より寄付金を受けるほか、社長の下村正太郎より寄贈の蔵書を「下村文庫」とし、有職故実に関する「本間叢書」、水谷不倒蔵書等の受入など図書館の充実のために尽力した。さらに、坪内逍遙や東儀鉄笛とはかり、図書館基金拡充のための音楽会を五月に開催するなどの試みを実施した。これには大隈重信が自分が出掛けることで会が盛りあがるならと、夫人同伴で出席している。

三月には、市島が会長である文庫協会の会名を日本図書館協会に改め、前年の『図書館雑誌』創刊とあいまって、近代的図書館活動の中心的役割を果たす組織に衣替える。

一方、家庭的には、必ずしも恵まれたものではなく、ユキ夫人が病気がちであり、男子の機と昂の二人の健康もすぐれず、昂は早稲田中学を中退を余儀なくされる。市島は、悲痛な思いで、「長男二男共々頭脳に病あり。蓋し酔人の子なるが故に然りとせば、爺々は児等のために屠腹して其の罪を謝さざるを得ざるや」(二月二十八日)と誌した。昂は四月に豊山中学に転じ、学業を続けることになるが、依然として療養生活を続けざるを得なかった。

市島の趣味である古典籍、書簡、印章の蒐集はさらに進み、暇を求めては古書店等を巡り、中井敬所、吉田半迂、浜村藏六などの印人との交際が頻々として記されている。

本稿も引き続き金子宏二、酒井清、藤原秀之、渡部輝子の四名が担当した。(平成五・一一・二二)

特  
イ 4  
1919  
549

## 春城日誌

明治四十一年  
一月一日以降

明治四十一年一月

元旦。曇。昨年近親の不幸重なりたるニ付、旧慣ニ依り門ニ断りの標札を打ち、賀客を謝す。自身も年礼を廃す。図書館員、例年のことく相携えて来る。置酒して歓待す。高木方ニ行き道樂始を為す。本日は差当り入用あり。飛弾の山折敷十人前を購ふ。在長岡の機より、電報あり。帰京の途次、長野ニ於<sup>ニ</sup>て雪ニ<sup>ツマ</sup>支えられ越後迄引返す旨申来る。

刻翻「春城日誌」(一〇) 明治四十一年一月

二日

晴。本日書初として、和泉の哥慈并ニ勇吾君の碑銘を揮毫す。小倉鎮之助、下林貞雄、大木操、鎌田松造等交々来訪。客散して後、高木を訪ふて、物茂卿の書牘を購ふ。華山の画幅を借り受けて歸へる。L(二)

三日

晴。金子筑水(馬治)同伴、八時三十分飯田町汽車ニ投し、甲府へ向け発す。甲府ニ於て開会の校友会ニ臨席之為也。甲州行はこれにて三度目なり。年賀を廃したる余か、はるく甲州へ年始ニ出かけるも奇。信越出身の兩人が甲州へ携えて行くも亦奇。行程は不相變墜道又々々にて、宛から地底旅行を為すことく、到る処の停車場にてマゴツクこと多時、転た乗客をして懊惱ニ<sup>ニ</sup>禁えさせしめたり。塩山付近より昨年水害の激甚地ニ属し、車窓より歷々其の痕跡を見る。桑田変して砂漠となり了するもの此ニ相望み、其の被害の度は、憂うに予期の上にある。転た人として酸鼻に堪えざらしむ。三時十余分にして甲府に達す。校友の出迎ふもの数名、直ちに談露館

と云ふ旅館ニ投す。関善次来話。夕刻より会場なる望仙閣ニ到る。席上筑水と共に交々演説を為す。九時散会。旅館への帰<sup>ニ</sup>途、水晶の印材を購ふ。又家苞に串柿などを購ふて、寝<sup>ニ</sup>就く。甲州の氣候は、東京ニ比すれば、稍々寒きか余りに相違を感じせる程也。

#### 四日

晴。早朝、関善次、風間某来訪。八時三十分別を告げて、帰京の途ニ就く。帰途別ニ記すべきものなし。定刻牛込<sup>ニ</sup>着、直ちに家ニ歸へる。<sup>(三〇)</sup>

#### 五日

晴。高田半峰ニ書を与ふ。旗野箕織来訪。高木方ニ到り古代蒔絵香匱、立原杏所の画等を購ふ。吉田東伍妻、和泉文三夫婦、亡弟未亡人等交々来訪。又、昆田文、真木山孟治、伊藤正、二宮郁次郎来訪、真島信城へ味噌の返礼として、甲州産串柿一函を贈る。半夜地震あり。井上辰九郎ニ簡す。熱海ニ行き不在也。<sup>(三二)</sup>

#### 六日

晴。在米、巴利三郎より絵はかきを贈らる。半迂来訪、

新年初刻之印を贈らる。半日印話をなして去る。午後、江部夫婦并ニ宗家の庶子亀吉、佐野清一年賀ニ来る。夜分迄留めて馳走を為す。

#### 七日

今朝、雪降る。節は小寒ニ入る。不用骨董十数点を携え高木方へ携帯、青磁香炉、曲玉、金銀環等と交<sup>ニ</sup>換<sup>(四〇)</sup>を為す。又直入寒林枯木之図、刷毛目黒塗碗五人前購入。賀章頻々来る。

#### 八日

好晴。井上辰九郎を訪ふて、藏幅を観る。去つて高田を訪ふ。不在。午後より高木を訪ふて払を為し、高麗青磁菓子鉢、古阿蘭陀色絵菓子皿を購ふ。共々珍とすべきもの。価二品にて二十四五十錢也。外出中、三輪潤太郎、那須宥高来<sup>ニ</sup>訪<sup>(四二)</sup>。

#### 九日

晴。校友埴原方次郎来訪。踵て吉田半迂来訪、近作之山水を示さる。高田ニ簡し、明日、石渡敏一、井上辰九郎と共に余か宅ニ素人料理之馳走を為すに付招待を申遣す。



昂を携えて太歡樂亭ニ午餐を与にす。帰途、高木方ニ立寄、絵御本、高麗茶碗一、古九谷小皿十枚を購ふ。山田清作并ニ琳琅<sup>五ウ</sup>閣ニ簡す。昆田重三の計ニ接す。木村衆市の来書ニ接す。夜に入り伊藤正、消費組合之件ニ付来話。

#### 十日

好晴。田中唯一郎、武藤喜一來訪。木村衆市ニ答ふ。趣味記者来訪。夕刻より高田、石渡(敏一)、井上(辰九郎)を招飲、越後料理を饗し、書画を品評して深更ニ至り散す。<sup>(五ウ)</sup>

#### 十一日

好晴。山田清作、小柴卯之七、琳琅閣番頭、吉田半迂等、早朝より来訪あり。小柴より越後産鴨一双を贈らる。山田ニ高田より借入之与清肖像を交付す。琳琅閣を訪ふて未亡人と話す。鶏血印材二十七顆(函入)を購ふ。価百六十円。四五を除くの外佳材也。家什の三四を以て、類品と換えるニ於ては、印人ニ向つて誇ることを得べし。高木弘方ニ立寄、薄暮帰<sup>六オ</sup>宅。

#### 十二日

晴。田原栄、大久保達、磯部武者五郎、林瑛来訪。磯部より、鈴屋遺蹟保存ニ付云々の談あり。真木山孟治、真野御陵保存之件ニ付来訪。半迂来訪ニ付、新購の鶏血材を見す。江部淳夫、勝吉等来訪。終日、接客ニ忙ハシ。晩間、小林堅三、島恒四郎等来話。落谷村<sup>七ウ</sup>ニ田地の売物あり。検分之為、信<sup>六ウ</sup>平行く。機より二通の絵はかき到来。

#### 十三日

晴。初めて登館。館員を会して、事務上之打合を為す。衡文堂より、高南阜硯録未装本四卷を示さる。午後より双魚堂瑣記を筆す。夕刻より明進軒ニ於て学校の維持員会あり。医科、理工科新設の件ニ関し、重大の協議を遂ぐ。不景氣之折柄、百五十万円之大募集ニ着手し成功する否ヤ<sup>七オ</sup>ニつき、惑ふもの少からず。然れとも、兎ニ角、大体四月より、先つ科を置くニ決して散会す。

#### 十四日

晴。趣味記者ニ反故趣味ニ就て談話する所あり。筆記せ

しむ。山田清作来り、内外印刷会社紛擾之次第を報告す。吉田半迁来訪、近刻之印を齎らし来り見す。午後より高木方へ行く。支那机一を購ふ、価<sup>レ</sup>モウ廿五円也。其の代物ニ紫檀机一、紫泥水盤外植木鉢類三十余个を遣す。亦銅印数顆を得。内ニ糸印一顆、珍らしきものあり。吉田東伍ニ簡す。今夜俗ニ所謂る小年<sup>コトシ</sup>に相当す。小児ニ新調之膳を与ふ。越後より貰らひ受けたる家鴨を調理して喰ふ。珍珠舌を鼓す。双魚堂瑣記、二、三頁を筆して寝ぬ。

#### 十五日

（八才）

朝来降雪あり。尽日収らす。朝餐後、高木を訪ひ、去つて石渡敏一を越前堀ニ訪ふて、午後四時迄談笑して別る。帰宅後、家人報す。高田半峰来訪。又曰、昨夜二時、大隈信常の宅、火災ニ罹り土蔵之外すべて烏有となると。晚餐後、高田を訪ふて学校第二発展之事を協議し、深更家ニ歸へる。三輪潤の書ニ接す。十時五分、長時間ニ渉る地震あり。（八才）

#### 十六日

晴。半迁来訪。半迁并ニ知友之為額面三四枚を揮毫す。

真木山孟治来訪。吉川半七妻の訃到る。大隈信常ニ見舞状を發す。三輪潤太郎ニ答ふ。三四の書簡を發して事を処す。半峰より越後直江津の蟹井ニ支那密柑を贈らる。山田清作来り、吉川妻死去之事を云々す。坂口五峰晚間来訪。置酒、印之品評をなして、夜に入る。余の印房を紅霞山房と命す。鶏血<sup>ニ</sup>九才材を多く得たるニよる也。

#### 十七日

晴。朝餐後、高木方ニ行き、書面を観る。古赤絵之皿代八円払済。五峰ニ簡し雪花墨を贈る。登校、敷地購入ニ付、学長と内議を凝らす。午後より吉川半七妻葬式ニゆく。寺は牛込原町也。石塚三郎より数通の絵はかき来る。（九才）

#### 十八日

晴。小柴卯之七来話。高木方を訪ふて、香合（存星）一、浜村初代藏六作季姫匱一を獲。内務省ニ水野鍊太郎を訪ふて真野御陵之事を云々す。刊行会ニ至り事務を見る。亦、弘文館ニ相沢敏太郎、本間季雄と話す。帰宅後、那須宥高、物集高見之群書索引ニ付来話。山口県山口図書

館佐野友三郎之書ニ接す。高麗史之事ニ関す。佐々木義山、満洲より帰来々」(二〇)訪。夜に入り井上辰九郎来訪、書画を品評して去る。

## 十九日

晴。日曜。越佐会幹事三名来訪。二月下旬、二十五周年紀念大会を開ニ付、協議する所あり。真木山孟治、辻川武之進来訪。服部嘉香来訪ニ付、藤野古白遺書寄贈之事を協議す。鶏血材<sup>并</sup>他之印材代百五十円之内五十円、本日琳琅閣へ払済。浜村蔵六ニ簡して」(二〇)紅霞山房印の鐫刻を托す。佐藤貞雄息子来訪、物を贈らる。三輪潤太郎来訪、印五顆を贈らる。亀吉遊びニ来る。夕刻より落後生と共に高田方ニ招かれ、明治史編纂の相談を為す。

## 二十日

曇天。石渡敏一を訪ふて、博士推薦之件ニ付協議す。午時刊行会ニ立寄り事務を見。高木方ニ立寄、古鏡一面」(二一)を購ふ。不在中、赤堀又次郎来訪。芭蕉外七人の書翰、装潢を表具屋ニ托す。夜に入り地震あり。

## 二十一日

風、晴。下林貞雄より女子分婉の報あり。並木覚太郎より越後客中之近詠を寄せらる。三輪潤太郎、山田清作の書ニ接す。坂口五峰来訪。余ニ贈る鶏血歌一篇を示さる。吉田半迂、山田寒山、江部虚舟来訪。午後」(二二)より登校、学長と事を話す。館務を処して帰へる。半迂ニ托したる紅霞山房の印成る。

## 二十二日

昨日より大寒ニ入り、寒氣凜烈を覚ふ。早朝登校、土地購入之件ニ付協議する所あり。山田清作来訪、高麗史無点之仮刊行之事を決す。内務省ニ斯波宗教局長を訪ひ、佐渡の承久帝遺蹟保存之件ニ付協議する所あり。午時偕楽」(二三)園ニ於て山本悌二郎、千葉胤明、真木孟治<sup>(山脱)</sup>と会谈、斯波局長と談判之次第を報告し、更らに凝議する所あり、刊行会ニ抵り事務を見、帰途、高木方ニ立寄帰宅。晴。機今朝、石塚姉同伴帰宅。真島信城妻病氣ニ付見舞状を發す。学校へ簡して二、三の用を処す。黒川真道ニ書を投して、古人の書簡之鑑定」(二四)を依頼す。印刷会

## 二十三日

杜株券（十株券）壹枚学校会計へ担保として差入。雅那幅相沢へ遣し売却方を托す。高木方を訪ふて骨董を購入。田中唯、増子喜来訪。東海銀行より山地購入之件ニ付云々す。東海銀行ニ菊池晋二を訪ひ、交渉之末、一千円を減する事にて、談判纏まり、帰宅後、高田、増子ニ結果を特報す。三輪潤太郎ニ簡し、廿五日往訪を約す。」（二三〇）

## 二十四日

好晴、寒気少しくゆるむ。小林来訪、越佐会沿革を口授筆記せしむ。半迂来訪、家蔵の名人遺印譜五冊、図書館へ寄付ニ付、其の順序、製本の事を云々す。和田万吉ニ書を寄せて、佐州図書館設計之事を云々す。羽田より依頼之碑文を撰ふ件ニ付、牧野謙次郎へ依頼状を發す。午後より機を併ふて落合村ニ高田弥一郎を訪ふて、学習院付近の所有「二三〇」地を見る。亦購入ニ意ある高田弥一郎宅付近之田地（八反）を検して帰宅。山田清作の書ニ接す。増子、土地購入之件ニ付、坂本嘉治馬、東洋学人年会を開くの件ニ付、山田清作、徴古雜抄の件ニ付来訪、夜に入る。

## 二十五日

好晴。半迂来訪、家蔵之印譜を作る。小師橘三郎来訪。午後より出校、学長と話す。三輪潤太郎を「二四〇」浅草代地別宅ニ訪ふて、其の所蔵の書画骨董を見る。夜に入り帰宅。和田万吉の書ニ接す。

## 二十六日

好晴。日曜。早朝黒川真道来訪、相携えて小杉榎邸を二十騎町ニ訪ふて徴古雜抄を群書類從雜之部へ移して編纂する件ニ付協議す。立田革来訪、象山翁擡言、仲氏易（家祖著書）跋文を写して去る。五峰来訪、今「二四〇」夜蔵六、湘南と墨堤ニ会する事を約して去る。午後より大隈伯邸ニ維持員会を開き、大隈伯寄付之学校敷地と新購之土地を併せて、先づ財団法人となすの件、鳩山を維持員より除くの件等を決し、去つて墨江ニ蔵六を訪ふ。五峰湘南坐ニ在り、相携えて、坂口の案内にて双枕橋頭の八百松ニ宴を張る。余、近日鶏血印材若干を得。坂口、余の爲めに鶏血歌を作る。これより「二五〇」余、五峰と約す。余の爲めに長篇を作ニ付、芙蓉の刻印一を贈らんと。



今夕は蔵六、湘南を立会人として其の授与式を挙る也。

湘南、余のためニ印文を撰む。曰く、赤城霞客、曰く抛

磚引玉、余の棲、赤城下にあり、赤城霞客、紅霞山房の

紅霞ニ通す。此の撰ある所、又抛磚云々之印を以て、

文と換ゆるの實事を記する也。十一時半帰宅。内子告く、

旗野みのり来り訪ふと。落後<sup>二五ウ</sup>生来訪、早稲田ニ於

て、日本史編纂を同氏ニ托したるニ付、打合の爲め云々

して去る。

## 二十七日

晴。早朝、青年画家阿部蘇春来訪。山田清作、吉田半迂、

又来る。半迂より「紅霞山房鑑蔵之印」と入章せる印一

を贈らる。参校事務を処す。来月九日、小野東洋法事を

営むに付、学長より余を委員長ニ推薦あり。英国婦<sup>二六オ</sup>

人ゴルトン并ニリチャード（久しく支那に在りて教育に

従事<sup>セ</sup>し人）来校、支那学生之爲めに一場の演説を爲す。

大隈伯と共に接待をなして夕刻に至る。三輪より骨董書

画数十点、売却之爲めに遣す。内藤湖南より、雲慶<sup>二七ウ</sup>の奥

書ある写経の写真二枚を贈らる。野沢卯市ニ答ふ。学校

の社団法人を解散し財団組織となすニ付、高田、天野及  
余、清算人となるニ決定す。<sup>二八ウ</sup>

## 二十八日

寺崎広業、三輪潤太郎、高木一ニ書を投す。石器数点を

鑑定を乞ふ為、坪井方へ遣す。東儀季治、土屋詮教を招

き、小野梓君法会之件ニ付協議す。坂本嘉治馬も来り会

し、大体を定む。当日配布之絵はかき意匠ニ付、半迂を

招き協議す。午後より刊行会ニ至り事務を処す。帰途、

高木方ニ立寄、名家書翰数通を購ふ。新潟の渡辺徳次郎

来訪、鱈之子を贈らる。<sup>二七オ</sup>

## 二十九日

晴。高田を訪ふ、不在。参校事務を処す。小野梓君記念

絵はかき図案成り、富山房ニ交付す。寺崎広業、坂口五

峰、大久保達、浜村蔵六ニ郵書を發し来月五日、招待会

を催す旨申送る。三輪の書ニ接す。小柳善四郎来訪、長

女の事ニ付云々す。宮川鉄次郎宛書簡を与ふ。三輪より

預り品一部は、井上辰九郎方へ、一部は、高木弘方へ遣

し評價を依頼す。不用の雜品を<sup>二七ウ</sup>売り、高木方より



大形グリの盆を購ふ。価二十二円五十銭也。下林産見舞  
ニ内子、四谷へ行く。小野梓君遺墨借受之為、佐藤伊三  
郎へ書状を發す。五泉より祖母病重しと電報あり。電話  
を以て和泉文三を招き、祖母の件を協議セんとす。文三  
夜に入り來訪あり。半迂、絵はかき意匠を齎らし夜に入  
り來訪。斎藤音作、和田万吉の書ニ接す。

### 三十日

一八才

晴。早朝昆田文次郎來話。小野君法会ニ追悼演說依頼之  
為、大石正己を四谷伝馬町ニ訪ひ、去つて同じ件ニ付、  
三好退藏を青山の穩田ニ訪ふ。移転して赤坂氷川町ニ在  
りと聞き、同所を尋ぬ。不明之為、空しく引取。高木方  
ニ立寄、青貝二段六角印箱を購ふ。四時より校友大会を  
富士見軒ニ開會出席。

### 三十一日

雨。大久保湘南、牧野謙次郎等の書到ニハッる。高田を  
訪ふて、学校の件并ニ余の土地經營問題ニ関し、四千五  
百円借入之件を協議す。偶々、田村惟昌來り會し、鳩山  
の進退ニ関し云々す。増子を中学ニ訪ふ、不在。午後高

木を訪ひ、又三輪潤太郎を淺草代地ニ訪ふ。半迂ニ囑セ  
し双魚堂の魚就章成る。今夕、三輪方ニ骨董數点を示さ  
る。就中梅谷売茶翁一行物并ニ淺黄絵高麗茶碗、尤も逸  
品也。即五十金にて購ふ。今夜、和泉より祖母病氣漸く  
可也。安<sup>ニ九才</sup>心<sup>セ</sup>よと申來る。

### 二月

#### 一日

早朝、三好退藏を赤坂氷川町ニ訪ふて、小野梓君の既往  
を談し、来る九日の法会ニ追悼演說を為さんことをもと  
め、其の承諾を得て歸へる。午後より學校に於て、財団  
法人組織に関する維持員會を開き、前回ニ引続き討議の  
末、すべて前回通決定。羽田<sup>ニ九才</sup>智証、三輪潤太郎、  
種邨宗八、増子喜一郎宛、其他二、三の雜信を發す。犬  
養を訪ふ。病臥の爲面會を得ず。書翰卷二（一、伊達政  
宗外諸侯、一、大形消息）表装ニ遣す。

#### 二日

晴。日曜。小柴卯之七、辻川武之進、石井省ニ來訪。石

井ニ対し手紙趣味を談す。増子喜一郎、余の土地経営ニ関し佐藤伊助と交渉の仕末を報す。石塚松「（二〇）」籙より六匁会命名の礼状来る。学校社团解散、財団新組織ニ関する書類に調印を為す。午後坂口五峰來訪。鶏血石歌、槐南の斧正を経て漸く稿を定めたりとて示さる。即ち鶏血印篋を出し、其の蓋裏ニ揮毫を請ふ。辻川、午後再来。雨森芳洲、桜間青崖の幅を示さる。越佐会沿革誌の稿を修む。大久保湘南より妹死去、帰郷ニ付五日の会に欠席の旨申来る。真木山孟治、「（二〇）」阿部蘇春の郵書ニ接す。

### 三日

晴。江部淳夫來訪。家庭の事ニ関し余より説示する所あり。參校事務を見る。小野梓君法会ニ関し、各級委員ニ対し諭示を為す。又同伴ニ付、教友会と交渉す。犬養木堂、棚橋一郎の書ニ接す。共々小野君の事ニ関す。夕刻より刊行会ニ至る。今夜同会編輯員の慰勞会を「（二一）」万安ニ開く。帰宅後、坂口五峰の書ニ接す。

### 四日

晴。坂口五峰の書ニ接す。市長より七日、日比谷図書館

評議員会を開く旨通知あり。石井省二の書ニ接す。朝来頭痛を覚え尽日家居。寺崎へ使を遣す。越佐会幹事を招き、大会之事を協議す。五峰、湘南、広業、藏六へ、明日赤坂三河屋ニ小集を為すの案「（二二）」内を發す。文三帰京、祖母病氣回復之事を報す。半迂来り、明日三河家小集ニ付打合を為す。新調二枚折屏風ニ文三小切の張交を為す。坂本嘉治馬の書ニ接す。

### 五日

昨夜来チラ／＼雪降る。積るに至らず。朝来水谷不倒、山田清作來訪。曲亭未刊書（早稻田本）を刊行会ニ於て出版するに付、編纂上之相談を為す。「（二三）」今朝配布之趣味雜誌ニ余の反故趣味談出づ。午後半迂を伴ふて、赤坂三河屋ニ抵る。五峰、藏六、広業踵て到る。大久保湘南病を以て来らず。酒間、五峰絹本を展べて鶏血歌一章を書して余に贈る。藏六、広業亦余のために画を作る。右二張の絹本は対幅となして家ニ藏せんことを期す。広業醉態、淋漓例之如く灑落を極む。十一時過宴を撤す。」

（二三）

六日

晴。午前家居、家事を整理す。三好退蔵、小野安子の書ニ接す。参校、鑑査会ニ臨み学校会計之鑑査を爲す。小野追悼会の委員会を開き、当日の細目を決す。江部妻来る。羽田智証、寺崎広業の書ニ接す。

七日

風。辻川武之進、広田金松、阿部蘇春来訪。登館事務を見る。又、越佐<sup>(二二三)</sup>会幹事を会して、紀念会之事を協議す。本日琳琅閣之勘定二百円の口へ二十円相渡。十回之分済第一回也。風邪漸々甚しく午後より温臥、加養す。

八日

昨夜多少の発熱あり。今朝も気分すぐれず、尽日蔭中に在り。菊池晋二、清水広博、小野安子、坂本嘉治馬来訪あり。前田秀村を迎へて診察を乞ふ。気管支に罹る格別の事に<sup>(二二三)</sup>あらずと。旗野蓑織来訪。

九日

晴。日曜。大江乙亥門、坂口仁一郎来訪。五峰ニ兔の燐燭焼と云ふものを贈らる。刈羽郡岡之町辺ニ産するもの

也と。五峰曰く、大久保湘南は終に病歿せりと。余驚<sup>つて</sup>えて病症を問ふ。天然痘ニ罹りし也と。一詩人を失ふ、惜むべき哉。余の病状、昨日と大差なし。今日午後<sup>(二四)</sup>西本願寺に於て、小野梓君の廿三年法要を営むに付、余その主幹なるに偶々、病を獲て臨む能ハさるは遺憾之至也。

十日

晴。病漸く佳也。朝来数通の書状を截して、病臥中延滞之事を処す。清水広博来訪。高田に図書館を開く件ニ付云々す。辻川武之進來訪、佐渡山西清吉より来書あり。

越佐会之事を処す。東<sup>(二四)</sup>儀季治、吉田東伍、江部淳夫来話。坂口五峰の書ニ接す。土屋詮教来訪。坂本嘉治馬、吉田半迂、山田清作も又交々来接、病人極めて繁忙、尽日蔭上ニ座し寸時平臥を許さる也。和田万吉より佐渡図書館設計図成る由報し来る。増子喜一郎より来書あり。土地経営資金之事ニ付佐藤伊助より、郷里之親族と相談の結果、貸兼ねる由報し来る<sup>(二五)</sup>

十一日

晴。紀元節。病氣平愈ニ向えたるも、尚藤上にあり。真島信城より細君病氣平愈を報じ来る。井上辰九郎の書ニ接す。直ニ答ふ。塩沢昌貞来訪、三省寄付金之件を協議す。佐渡の深井康邦ニ書を投す。和田万吉ニ答ふ。越佐会之沿革紀要を校して、日清印刷会社ニ印刷を托す。寺崎広業より使来り、今夜印会を催すニ付、余にも出席せよ云々。病氣平愈ニ到らざるを以て「(二五)」断ハる。羽田智証ニ書を与ふ。佐野伊三郎来訪。近日天然痘流行ニ付、本日前田医師を招き、余始め家族一同種痘を為す。島田翰来訪あり。

十二日

晴。風。病全快ニ至らず尚藤中ニ在り。文庫協会改正規則草案を和田万吉へ郵送、其意見を問ふ。三輪の書ニ接す。直ニ答ふ。五峰ニ書を投す。小林堅三来訪。新潟渡辺徳次郎の書「(二六)」接す。(二七)石黒男爵ニ書を投して、佐久間象山獄中作歌の跋文を乞ふ。佐渡長禪寺之依頼ニ応する也。半迂来り、昨日刻成の「赤城霞客」の印を示さる。

亡弟未亡人来訪。前田医師来診。羽田智証来訪。斎藤音作一件ニ付云々して去る。落合之高田弥一郎も土地売却之事ニ付来る。尽日接客ニ忙ハシ。閑人閑ニあらざる也。

十三日

晴。病状依然たり。和田万吉、三輪潤、坂本嘉治馬等の書到る。加藤を招き文庫協会規約修正の事を云々す。高田半峰、増子喜一郎ニ簡して土地購入一件を云々す。石黒男爵の答書ニ接す。増子来訪、落合邸の土地購入につき協議して去る。骨董商本山豊実来訪。相沢を介して売却せる雅邦幅代百円受取。蔵六の書ニ接す。高麗史譲受之件ニ付、佐野友三郎より返翰を領す。(二七)

十四日

曇。朝来少しく頭痛を覚ふ。五峰、辻川、小林、旗野、鎌田妻等来訪あり。辻川を経て五十嵐敬止より桜間青屋高閣山水幅を購ふ。価三十円也払済。鶏血印材代金之内五十円琳琅閣ニ渡す。島田翰の書ニ接す。山田清作来話。黒川真道の書ニ接す。種痘三顆善感。前田医師来診、余の気管支カタルニ就て曰く、平愈迄少なくとも一週間を



要す」(二七ウ)べしと。

### 十五日

晴。佐渡郡役所へ図書館の製図五枚、設計書二冊遞送。  
又深井郡長へ郵書を發す。佐渡の山西清吉ニ答ふ。土地  
經營之件ニ付、半峰ニ懇書を發す。刊行会印刷進行之事  
ニ関し、林、相沢ニ親展書を發す。野沢卯市の書ニ接す。  
高田弥一郎来る。同人所持購入之件ニ付協議を為す。晚  
間」(二八ウ)小野安子、神戸へ戻るニ付告別之為來訪。江草  
斧太郎の訃到る。吉田東伍來訪。相沢敏太郎の書ニ接す。  
人を山田清作へ遣し、明朝來訪をもとむ。

### 十六日 日曜

晴。病漸く快、尚蔭中に在り。山田清作を招き刊行会印  
刷の事を話す。大木操來訪。高木一來訪、季吟の書翰、  
曲玉類を齎らし來り示す。乃ち共々購入す。半迂、越佐  
会の印を携」(二八九)え來り示さる。宗家の亀吉等遊びニ來  
る。北堂の書到る。

### 十七日

昨夜來烈風あり。病狀益々佳也。山田清作の書ニ接す。

坂口五峰、三輪潤太郎、増子喜一郎、吉田半迂來訪。坂  
口を中井敬所ニ介す。高田半峰より土地一件ニ付、特ニ  
書狀あり。越佐会沿革誌の活版校正廻り來る。一覽の上  
直ニ返す。」(二九ウ)

### 十八日

快晴。高田弥一郎の書ニ接す。関口泰輔來訪、來る廿四  
日杉山慶之丞を招くことに決し、同人をして申込ましむ。  
田代亮介來訪、半日書画骨董の展玩を与にし午餐後別る。  
昨日浅艸之大火ニ書肆朝倉屋類焼ニかゝりたるニ付、見  
舞狀を發す。長井一禾、米国より帰朝來話。真島本家よ  
り塩引を贈らる。深井康邦、和泉五郎の書ニ接す。文庫  
協會規約改正之件ニ付、本日評議員会開」(二九ウ)会(來廿  
二日帝国大学集会所ニ於て)の通知を發す。

### 十九日

晴。今日病牀を徹す<sup>(感)</sup>。三輪潤、相沢敏太郎ニ書を投す。  
高田ニ簡して藤枝銀行より之回答を調ふ。其返書ニ接す。  
増子ニ書を寄せて、土地一件の事を托す。五峰來訪。藏  
六製陶印二顆を贈らる。大隈伯より開國五十年史上卷を



贈らる。富山房より東洋」(三〇オ)梓君法要紀念写真を贈らる。小野安子の郵書到る。田代亮介より竹田印譜を贈らる。桂湖村来訪、陶器の鑑定を乞ふ。京都の新井智三郎来訪。竹泉作の菓子鉢を贈らる。山田清作来話。

## 二十日

晴。病平愈。高田半峰を訪ふて土地購入之件を協議す。高田を経て、藤枝銀行へ四千円借入申込の事は終ニ調ハす。」(三〇ウ)増子を中学ニ訪ふて土地之件を研究す。高田弥一郎と略々約したる条件并ニ価格は、当分不利なる事を発見し断念。断り状を高田弥一郎へ発す。登館事務を処す。午後より高木を訪ひ半日骨董を翫ひ、鶏血材一、堆朱肉地等を購ふ。此価即座払済。石黒男より草稿入(象山翁国歌跋)書状来る。又羽田智証、山田清作より来書あり。」(三二オ)

## 二十一日

晴。真島桂次郎、浜村蔵六の書ニ接す。石黒男ニ答ふ。牧野謙次郎ニ書を投す。高田弥一郎、土地の件に付来話。五峰来訪、半日閑話。三浦桐蔭ニ贈るの長篇を示さる。

朝来感冒の気味あり。尽日家居。

## 二十二日

晴後雨。早朝佐藤伊助を訪ふて、土地経営の件を話し、去つて増子喜一郎を」(三二ウ)訪ふて同伴を話す。五峰を旅宿ニ訪ひ、相携えて湯島切通し骨董店ニ印材を購ひ、上野ニ午餐を与にしたる後、中井敬所を訪ひ印話をなし、四時頃より帝国大学構内集会所ニ文庫協会評議員会を開き、規約の修正を協議し夜に入り散会。本日不在中真島桂次郎来訪あり。在米直策、会津八一の書到る。神戸の小野安より電報にて紹介状の事を云々して来る。」(三三オ)

## 二十三日

日曜。松平康国来訪、肉地を贈らる。中村菊台来訪、鶏血材を示す。謝金七円相渡。内山諦観、本田信教来訪。本田より近著を贈らる。樋口清策、川村直成来訪。佐藤伊三郎来訪。兄弟間の紛給」(三三ウ)付懇談あり。山西清吉の書ニ接す。真島桂次郎ニ書を与ふ。小野安子ニ神戸二新聞宛紹介状を郵送す。山田清作来訪。佐藤正十郎来る。余より兄弟間の云々ニ付説示す」(三三ウ)る所あり。長時間交

涉の末、略々和解して去る。

## 二十四日

雪。竹村五百枝之書ニ接す。直ニ答ふ。高田を訪ふて事を話す。去つて増子を訪ふて、土地問題を話す。佐藤伊三郎ニ簡し、明日来訪をもとむ。石塚松籟之書ニ接す。午後より登館、事務を見る。又出版部の組合会ニ臨み、緊要之事を協議す。夜に入<sup>三三</sup>り大丸呉服店の校友杉山慶之丞を赤坂三河屋ニ招宴、図書館寄付金之件ニ付協議す。

## 二十五日

晴。山西清吉より杏所并ニ兼葭堂画幅を売却之為郵送し来る。二幅共贗物、見るに足らざるもの。半迂夫婦手製の雛人形六基を齎らし来る。越智修吉、不日台湾日々新聞へ赴任ニ付来訪。<sup>三三</sup>五峰来訪、午餐を与にしたる後、相携えて文求堂ニ抵り、唐本を観る。余館之為五山版毛詩鄭箋、黄山谷玉澗集外帋部を購ふ。此価三百円也。外ニ支那通志類若干部を購ふ。小野安子の書ニ接す。山田清作より刊行会月末払ニ関し相沢の書面を齎らし来り

云々す。真島より焼白魚一函を贈らる。昂、神経衰弱にて医師へ遣す。大丸より関口を以て図<sup>三四</sup>書館へ金壹千円寄付之事を申越す。使を以て、学長に前件を報し、明朝大丸主人同伴総長訪問の事を云々す。夜に入り佐藤伊三郎、兄弟間の問題ニ付来話。

## 二十六日

晴。下村正太郎(大丸呉服店主)、杉山慶之丞を伴ふて大隈伯ニ紹介、終つて図書館を案内し、午時明進軒ニ午餐を与にして別る。午後松平康国来<sup>三四</sup>訪。同人所蔵本購入ニ付協議す。山田清作を招き刊行会の前途を協議す。

## 二十七日

晴。坂本嘉治馬より来簡あり。過日依頼の金件を諾し来る。島田翰の書ニ接す。中井敬所、高田弥一郎、松平康国ニ書を投す。坂本へ約束手形(壹千五百円、期限四月廿七日、鴻池銀行)を交付、其の裏書を托す。増子に書を投して近日佐藤伊助と会見することに付云々<sup>三五</sup>す。桂湖村より対山人自刻の印を贈らる。登館事務を見る。三時より大隈邸に於て維持委員会を開き、緊急の諸件

を協議し、新財団法人の維持員として伯より十五名指名あり。すべて旧の如くなれども鳩山を除きたり。又、基金募集専務委員の指名あり。余も其の選に入る。引続き評議員会を開く。初めて第二発展の経画を学長より披露し、晩餐の饗を受けて散会す。図書館雑誌「三三」第二号印刷成る。

## 二十八日

晴。早朝山田清作来訪。刊行会之事を協議す。落後生来訪、日本歴史出版ニ関する条件を協定す。下村正太郎、松平康国ニ書を投ず。坂本嘉治馬、文求堂の書ニ接す。五峰来訪。深井康邦より書留書状来る。技師報酬壹百円受取。高田半峰、松平破天荒ニ簡す。松平の答書を得。

吉田「三六」半迂妻、自製の雛人形四対を持参。これは近々売弘めの為依頼の品也。二対丈兒女の為購ふ。昂、神経衰弱又々初まる。試験前にて不都合なれとも、当分学業を廃すへしとの医師の勧めにより己むなく中学の成規に本つき、一応退学する事ニ決す。長男、二男共々頭脳ニ病あり、蓋し酔人の子なるか故に然りとせば、爺々は児

等の為めに屠腹して其の罪を謝さざるを得ざる」(三二六)也。今夜一時赤城付近ニ大火あり。四隣騒擾を極む。幸ニ大雨到り、二時頃ニ至り鎮火。

## 二十九日

雪。下村正太郎の返書を得。中井敬所の書ニ接す。半迂ニ雛人形代五十円渡す。琳琅閣へ買物代之内三十円渡す。山田清作の書ニ接す。高田弥一郎来訪、土地購入之件ニ付登記手續を托す。和田万吉へ佐渡より回金之百」(三七〇)円佐渡図書館設計謝金為持遣す。巢鴨町立仰高小学校長中原敬藏より依頼の越後伝説四十七不思議解の序文を草す。晩間山田清作来訪。増子来訪。佐藤伊助ニ書を与ふ。」

(三七二)

## 三月

### 一日 日曜

終日雨。石黒男爵を訪ふて話す。佐藤伊助の書ニ接す。直ニ答ふ。高木弘を訪ふて、南蛮花生絵高麗筆架を購ふ。表具師へあつらひ置し手簡の巻十軸出来。五峰来訪、夜

に入るまで談話す。近日、帰県旅費之入用として金五十円貸付。坪内より、余依頼之序文章稿に鴉黄を施し来る。」

(三八オ)

## 二日

晴。山田清作と刊行会之事を話す。登館、事務を処す。坂本嘉治馬裏書にて、鴻池銀行より千五百円借入ル。返済期四月廿七日、落合村土地購入之為也。午後より文三来り、屏風の張交をなす。夕刻より佐藤伊助、増子喜一郎を明進軒ニ招き、落合村ニ於ける土地経営の協議を為す。五十公野浄念寺境内墓地の塙屏ニ扉を作ることに関し、宗家ニ書を「(三八ウ)」発す。江部妻来る。

## 三日

曇天。越智修吉、台湾日々新報へ聘せられ、不日出発ニ付、告別之為来る。大島久満次、賀田直治宛添書を交付す。刊行会ニ至り事を処す。亦林と話す。中原敬蔵より依頼之序文成る。紹介者阿部磯雄(文)へ交付す。不在中三輪潤太郎、高田弥一郎来訪」(三九オ)

## 四日

今朝より降雪あり。高田弥一郎来る。落合村高田所有高台の畑地一千七百坪購入と決し、本日登記手続をなす為、内子高田同伴、新宿登記役場へ行く。代金壹万四千円の内、余所有の畑地六百三十坪、此代金四千円、外ニ正金二千円差入、残金四千九百円は一ケ年間高田より六分の利子に借置く約定也。登館事務を処し、午後ニ至る。石黒男爵(三九ウ)ニ揮毫を托し置ける、佐渡赤泊禪長寺蔵佐久間象山獄中之和歌の跋文出来ニ付、野沢卯市宛郵送す。石黒男には謝状を差出す。本日高田弥一郎ニ金壹千五百円渡済。

## 五日

雨後晴。高木方を訪ふて俳客の短冊十数枚を購ふ。刊行会ニ至り事務を処す。又弘文館の相沢、林と会之将来之事を話す。江部淳夫来話。落合ニ所有セシ二個所の土地、今度」(四〇オ)高田弥一郎へ代地として譲渡すニ付、登記手続上余の戸籍謄本を要し、中浦村役場へ申遣す。那珂通世の訃ニ接す(二一日)。五峰より鱒場蟹を贈らる。近藤清石(山口県山口八幡馬場)の書ニ接す(高麗史購入ニ付



金百円受領証入。

## 六日

曇天。宗家の返翰ニ接す。越佐会幹事并ニ半迂来る。大丸呉服店専<sup>〔四〇〕</sup>務理事杉山義雄を伴ふて、大隈伯を訪ひ、一時迄談話、午餐の饗を受けて去る。伯ニ十五日越佐会大会ニ出席を請ふて、其の承諾を得。館務を処して帰宅。名家短冊帖を整理す。文三来訪。

## 七日

終日雪。越佐会之事を処す。小林堅三来り図書館当直規定を協議して去る。水谷不倒を訪ふて、馬琴遺編、続<sup>〔四一〕</sup>

燕石十種編纂之事を協議す。

## 八日

日曜。風。越佐会幹事を招集して、十五日大会の協議を為す。小柴卯之七、坂口五峰、佐藤伊三郎、山田清作、鎌田松造来訪。石塚三郎、小野安子へ郵書を発す。末女を拉して浅草辺ニ散策す。

## 九日

曇天。風。真島桂次郎来訪。明日同伴、大隈伯訪問を約

〔四二〕

す。半迂来訪。余の私印二顆奏刀、刊行会の編輯會議ニ

臨み、緊急の事を協定す。学校へ書を投して越佐会之事を処す。刊行会用にて重野博士ニ書を投ず。小野安子の書ニ接す。本田信教来訪。高木を訪ふて短冊を購ふ。内藤席次郎の書ニ接す。三輪潤太郎の書ニ接す。直ニ答ふ。新潟大火の報到る。〔四三〕

## 十日

晴。正午より雪降り、看るく堆積す。今朝真島桂次郎を伴ふて、大隈伯を訪ひ、園芸談を聞く。午時宅へ同伴、午餐を与にす。内藤席次郎ニ答ふ。石塚三郎より越佐会配布之絵はかきに関し来電あり。内山諦観の書ニ接す。

今夜紅葉館ニ同人相会して、越智修吉台湾行之送別の筵を張る。三輪潤、石塚節の書ニ接す。郷里より戸籍謄本を送り来る。〔四四〕今夜降雪あり。

## 十一日

夜来の雪積むて二寸余ニ至る。五峰、半迂来訪。五峰同伴、箕浦母の葬送をなす湯島某寺ニ抵る。式後五峰と共に中井敬所を訪ひ、印文詳解を贈る。伊予紋ニ飯し、蔵



六を向島ニ訪ひ、又幸田露伴を訪ふて話す。晚間蔵六、五峰と共に再び伊予紋ニ宴を張り、十一時迄歎晤、家（四三才）ニ歸へる。真島へ菓子并ニ雛人形を贈る。石塚より越佐会紀念用絵はかきを送り来る。小野安子の書ニ接す。昆田より「アハビ」を贈らる。高田弥一郎來訪。

## 十二日

晴。山田清作、佐々木義山、越智修吉來訪。石黒男爵を訪ふて、越佐会大会へ出席を請ふて其承諾を得。登館事務を処す。又学校の月次會計（四三才）監査会ニ臨み監査を為す。

## 十三日

晴。高田弥一郎、石塚三郎ニ書を投す。赤堀又次郎來話。高木弘を訪ひ、午時刊行会ニ至り事務を処す。本日、相沢より式百円受取。和田を帝国大学図書館ニ訪ふて話す。昆田文、坂本嘉治馬ニ書を投す。在宅、越佐会之事務を処す。和亭松の幅、紅霞山房紀念幅二（五峰、広業、蔵六合作）（四四才）裝潢成る。

## 十四日

晴。山田清作、赤堀又次郎、小林堅三、越佐会幹事等、交々來訪。半迂亦来る。登館事務を処す。学長と図書館科新設之事を協議す。饗庭へ可渡金之内百円、山田清作ニ渡す。午後一時より図書館ニ越佐会幹事を会し、明日大会之打合を為す。石黒男爵の來書ニ接す。大（四四才）丸呉服店、十七日開店の際ニ大隈伯を招待するに付打合之為、杉山慶之丞夜ニ入り來訪。

## 十五日

晴。日曜。大隈伯を訪ふて話す。午後一時より図書館樓上ニ於て、越佐会創立廿五周年紀念演說会を開く。大隈伯、竹越与三郎、増田義一、建部遯吾、及余演說す。四時より伯爵邸の日本座敷ニ於て宴会を（四五才）開く。百二十名來会あり。越佐会ニ於ては未曾有の盛会なりし。数日準備ニ忙殺されたる余の責任ある本会も目出度これにて済みたり。当日、星野恒、佐藤伊左衛門、其他越佐の先輩数名出席あり。石黒、前島両男が來会の約ありて、終に欠席されたるは遺憾なりし。佐藤庸雄（国華社員）阿部蘇春來訪。（四五才）

十六日

晴。竹越与三郎、佐藤伊三郎ニ書を投ず。阿部蘇春、長井一禾、坂本謹吾、交々来話。三輪潤太郎来訪。午餐を与にす。書画代七拾円相渡す。石黒男の書ニ接す。又、野沢卯市より象山跋の件ニ付謝意を表し来る。校友栗ノ池佐登志来話。大丸開店ニ付紀念品を贈り来る。夜に入り高田弥一郎来訪。土地代金貳千円の残金五百円相渡。残金四千九百円を二(四六オ)枚の借用証書として交付す。一枚四千円、四十二年三月三十日限、壹枚九百円、本年八月三十日限り、共ニ利子年六分。

十七日

晴。島村滝太郎、和田万吉の書ニ接す。高田半峰を訪ふて二、三の要件を話す。登館事務を処し、午後より大隈伯同伴、大丸新築開店ニ招かれて行く。半迂より京都仏師黒川万太郎作銅印二顆を譲り受く。高木方ニ骨董を(四六ウ)見る。刊行会ニ立寄り事を処す。牧野謙次郎より、羽田依頼之碑銘文稿を送り来る。渡辺尚、出京を報す。夜来雨あり。

十八日

雨。坂口五峰、真島桂次郎帰郷を報す。中野平弥より水電株式会社の事を云々し来る。松平康国、吉田半迂来訪。高木を訪ふて香器を購ふ。相沢敏太郎ニ書を投ず。又(四七オ)坂口五峰ニ答ふ。羽田智証、牧野謙次郎ニ投簡す。神戸又新の渡辺尚出京ニ付、新小川町の旅宿ニ訪ふて話す。佐藤伊三郎の返翰を得。小山田与清翁遺書展覧会を催すニ付、同好者へ案内状の下案を稿す。

十九日

今朝、半迂同伴前島翁を訪ふ、不遇。半日家ニ在り、書翰目錄を整理す。朝倉亀三の返書を得。広田金(四七ウ)松、山田清作来訪。夕刻より赤坂三河屋ニ早稲田出身貴衆新旧議員会を開く。余亦与かる。

二十日

雨。今朝機、越後長岡へ向け出発す。来月廿二日、新発田ニ徴兵検査あり、受験旁帰県セし也。昨夜、鎌田方ニ女子分婉。日本史編纂の件ニ付、吉田東伍を訪ふて話す。松平康国を訪ふ、不在。登館、事務を見る。廿五日、小

山」<sup>(四八)</sup> 田与清忌辰ニ付遺墨展覽会を催すため、諸般の準備を為す。

## 二十一日

春季皇靈祭。天気あしく気分引立たず、尽日家居。山田清作の来書ニ接す。赤堀又次郎、吉田半迂、佐藤正十郎、広田金松等来訪あり。中井敬所ニ書を投す。坂口五峰依頼之論印絶句贈写成り、写手ニ筆耕料渡済。杉山慶之丞、松平康」<sup>(四八)</sup> 国、林縫之助ニ書を投す。兄、徴兵受験之件ニ付、委頼書を真島信城ニ投す。午後より雪チラ／＼降る。刊行会の件ニ付、牧野(謙)ニ書を与ふ。又中野平弥ニ答ふ。

## 二十二日

晴。日曜。立田革来り、象山の額面を見んことを乞ふ。即其の写を与ふ。朝倉亀三を招き続燕石十種ニ収むべき材料を帝国図書館の図書ニ就」<sup>(四九)</sup> て探索せんことを依頼す。佐藤貞雄の長男二男、関栄太郎長男来り。早稲田入学ニ付保証人たらんことを需む。即ち諾す。小師橋三郎来訪、学生寄宿所を設くるニつき云々の依頼あり。午

後より相沢敏太郎を蠣殻町の居ニ訪ひ、月末會計上之事を云々す。帰路高木方へ立寄り帰へる。松平康国の返翰を得。」<sup>(四九)</sup>

## 二十三日

晴。山田清作来る。刊行会の事を協議す。国華社員来訪。館蔵国華欠本購入之事を協議す。大隈伯を訪ふて話す。登館事務を処す。岡礼三、関達二、佐藤悌蔵、正玄早成、赤堀又次郎来訪あり。ジョッケークラブ会頭尾崎行雄より競馬の案内来る。江部妻来る。

## 二十四日

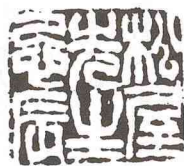
」<sup>(五〇)</sup>

晴、俄かに暖氣を覚ふ。小林堅三来訪、大隈伯園芸談を口授筆記せしむ。辻川武之進、吉田半迂来る。関口泰輔、大丸呉服店より図書館へ寄付金一千元を持参す。余より飯受取を渡す。山田清作、大隈信常、立田革、今井貫一の書ニ接す。二児を伴ふて浅草辺ニ散策。百華園を訪ふて帰へる。不在中石渡敏一來訪。松原九郎より、紅料塗擦神經療法の書類を贈らる。日清印刷会社より、四月四日」<sup>(五〇)</sup> 株主総会を開(一株につき二円五十銭払込の件)

く云々の通知ニ接す。

## 二五日

曇。名人の忌辰誕辰ニ其人の遺著遺墨をあつめて、其人を偲び、かねて其の作品を研究するの端を開かんと欲し、本日偶々忌辰ニ相当するに付、早稲田ニ於て館藏并ニ帝



「松屋先生忌辰」朱印。  
2.6cm×3.0cm。  
松屋先生は、江戸時代の  
国学者小山田与清  
(1783-1847) のこと。

国大学帝国図書館より借入」<sup>五二〇</sup>之図書百余点を陳列し、同好を会して半日展覧を為す。

## 二十六日

雨。越後の骨董屋村山孝三、田代亮介の紹介にて名家書翰を齎らし来り示す。坂口帰省中之処、今朝着京、来訪あり。内子より注文の笹団子、鱈の子を贈らる。大丸呉

服店ニ下村店主、杉山理事を訪ふて、大隈伯の伝言を云々す。帰途高」<sup>五二一</sup>木方ニ立寄、支那製軸、盆を購ふ。吉田東伍、桂湖村、山田清作来話。

## 二十七日

晴。中野平弥、真島信城、児機の郵書ニ接す。登館事務を処す。午後より旗野十一郎身上之事ニ関し、湯原元一（音楽学校々長）を同校ニ訪ふて話し、吉田東伍を博士ニ為すの件ニ付、坪井九馬三を弥生町宅ニ訪ひ、<sup>五二二</sup>晩間朝倉亀三を訪ふて、某の所蔵の書翰二十余通を譲り受け、談話ニ時を移し、八時半漸く辞して上野の某亭ニ晚餐をした、め家ニ歸へる。弘文館、金つまりにて月末仕私ニ差支を生し困却の旨、山田清作より申来る。

## 二十八日

晴。真木山孟治来る。明日文庫協会総会に付加藤、和泉を招き會計、<sup>五二三</sup>庶務報告の件を協議す。刊行会月末勸定ニ付相沢を訪ひ、又林縫之助を訪ふて話す。刊行会ニ到り事を見る。饗庭より崋山与馬琴手束菴通を譲り受く。価十五円、山田清作ニ托す。大坂鹿田へ印譜代十五円郵

送す。不在中、坂口五峰来訪。

## 二十九日 日曜

午前曇、午後晴。日清保険会（五三才）社員某来る。小黒有助を広井一ニ紹介す。吉田洛城来話。広田金松、書画を齎らし来り見す。容斎の粉本三巻を購ふ。午後より帝国大学構内山ノ上ニ文庫協会の総会を開き、規約の改正をなし、会名を日本図書館協会と改め、役員の総改選を行う。余、再び会長ニ選挙せらる。晚餐を与にして散会。（五二才）

## 三十日

晴。賀田菊、越智修吉、内田貢の書ニ接す。登館事務を処す。文明協会の幹事来つて、評議員たらんことを云々す。辞退す。午後、愛宕清松寺ニ於ける岩崎弥之助男之葬儀ニ臨み、帰路刊行会ニ立寄帰宅。三上参次より来書あり、韓国図書刊行会の事業を、余の關係の刊行会と併せては如何、云々。江部淳夫来訪。昨日宗家主人（五四才）ニ上京之旨を報ず。不在中、坂口五峰来訪。和田万吉の書ニ接す。書中、久志本梅莊、名家書翰を他人より預り売

却之由を云々す。即ち夜を冒して本郷初音町の宅ニ訪ふ。生憎其の品家ニ在らず。韓天寿の書翰壺通を貰ひ受けて帰へる。坂本嘉治馬の書ニ接す。

## 三十一日

晴。大に暖氣を覚ふ。児機の書到（五四才）くる。坂口五峰、今朝一番帰県（五三才）の由にて、態々書状為持使を遣はさる。封中吉田落後ニ贈るの長歌あり。即転致す。内子と児を携えて浅草辺ニ散策す。外出中、文明協会幹事原祐道来る。和田万吉、坂口五峰、坂本嘉治馬、下林貞雄ニ書を投す。（五五才）

## 四月

### 一日

晴。真島桂次郎より、梨子一函を贈らる。機、徴兵の件ニ付、真島信城より来信あり。小林堅三、文明協会の幹事、原祐道来訪、同会の経営ニ付協議する所あり。在長岡の機ニ發電、早々真島信城を訪問すべき旨申遣す。東海銀行并ニ丁酉銀行ニ抵り、丁酉ニ図書館協会預金之内、



四百円也、年六分の利子にて半ヶ年間定期預を」<sup>(五五ウ)</sup>為す。昆田を古河の会社ニ訪ふ、不在。久志本幸常来る。

同伴、四谷塩町河手七平所蔵の名家書翰を見る。赤坂三河屋ニ久志本と晚餐を与にして別る。大口鯛二の来翰ニ接す。浜村蔵六より朱白会の印譜印心二巻を贈らる。

## 二日

登館、事務を処す。佐藤正十郎、一身上之事ニ付来訪。

真島信城、浜村」<sup>(五六オ)</sup>蔵六、久志本梅莊ニ書を投す。昆

田文次郎を訪ふて、和泉文三一身上之事を依頼す。太田雪松、印刷会社払込之件ニ付、来つて云々の協議を為す。

## 三日

晴。賀田直治、山西清吉の来書あり。増子、本山春実、

坂本嘉治馬ニ書を与ふ。羽田智証之書ニ接す。高田の病を問ふ。偶々医師来診あり。病症、変体の腸窒扶斯と決

す。<sup>(五六ウ)</sup>阿部蘇春、加藤才次郎来訪あり。久志本梅莊の書ニ接す。樋口清策、森岡格雄来話。名家手束を整理して半日を消す。

## 四日

雨。東西文庫協会合併の件ニ付、島文次郎ニ書を投す。

又、久志本常幸ニ答ふ。加藤才次郎より来書あり。登館、事務を見る。午後、早稲田印刷会社株主臨時総会を山下町工」<sup>(五七オ)</sup>業倶楽部ニ開く。壺株ニ付二円五十錢払込を決す。名家書翰を整理して十二巻表具屋へ托す。不在中、小崎懋来訪。田中訥言模写蒙古襲来絵巻二、先年名家書翰と交換ニ林縫之助へ遣し置し処、本日百円にて買戻す。

## 五日

雨。本日、学校の春季運動会当日なれとも、雨天ニ付順延。小柴卯之七来訪。<sup>(五七ウ)</sup>森岡格雄、坪内逍遙の添書を持し来る。江森泰吉ニ紹介す。背水録を筆す。(学校の経営(第二期)ニ関する事実の他日忘却せられんことを虞れ記憶に存する事実をしるし置也)高木を訪ふて、骨董を見、琳琅閣ニ雑書を購ふ。偶々、江部淳夫ニ邂逅し、拉して伊予紋ニ晚餐を共にして帰へる。

## 六日

雨後霽。小崎、藍川来訪。出雲崎製いかの塩辛を贈らる。

」<sup>(五八オ)</sup>

半迂来訪、銀世界の梅樹を印材として刻したる、関防<sup>かんぼう</sup>を贈らる。佐藤正十郎来訪、間島景耀<sup>まみさかげいよう</sup>ニ遠碧転記<sup>えんせきてんき</sup>の筆写を托す。山田清作、刊行会の件ニ付来る。昆田文来訪、和泉文三、身上之事ニ関し賀田金三郎と交渉の顚末を云々す。直ちに文三ニ發電、明日出京を促す。」<sup>(五八ウ)</sup>

#### 七日

晴。文三、早朝来る。佐藤正十郎を藤村義苗ニ介す。小崎懋<sup>さきしげ</sup>を樋口屋ニ訪ふ、不遇。上野ニ飯し天王寺の墓地ニ抵り、各種の墓様を見る。先考の墓銘を作らん参考に資する也。小野梓君の墓を展して去る。朝倉を帝国図書館ニ訪ふて、続燕石十種の材料となるべきものを協議し、終に書庫内に入り随意搜索、二三種を得。琳琅閣を訪ふて香書を購入、朝倉<sup>(五九オ)</sup>亀三宅を訪ふて安田善之助ニ会し、図書館協会へ入会を勧めて、其の承諾を得。夜に入り帰宅。不在中、中野平弥子息来訪。越の雪、松露、肴料を贈らる。森岡格雄の書ニ接す。本日、兎昂、豊山中学へ転学、二女久、女子大学ニ入る。三女須美高等六

年の級長となる。夜二時、近傍火を失し、火の子屋上ニ散乱し来る。幸にして大火に至らず已む。」<sup>(五九ウ)</sup>

#### 八日

雨。中野貫一郎、姪、欽次を伴ひ来り、早稲田中学予備校へ入学の件ニ付云々す。即ち、増子へ紹介す。高沢喜一郎来話、踵て新野亮太郎来訪、一身上之事を協議して去る。機より来書あり。午後真木山孟治来話。文三、又来る。京都より島文次郎、湯浅治郎、今井貫一連記の書状到達。夜来大雪あり。」<sup>(六〇オ)</sup>

#### 九日

今朝積雪五寸に及び尚降りつづく。正午頃より雨となる。尽日家居、日本古印譜を整理す。饗庭篁村、朝倉無声、久志本梅莊ニ書を投ず。今朝文三を賀田金三郎方へ遣す。同人一身上之事ニ関して也。本日降雪之為、電車通せず。電話、電燈線概ね断裁、都下の不便言はん方なし。正さに爛漫たらんとする桜花も無残の最後を遂けたり。恐らく五十年來<sup>(六〇ウ)</sup>の変候ならん。

#### 十日

晴、三枝守富、久志本常幸、児機の書ニ接す。豊川良平を訪ふ、不遇。高木方ニ鎌倉時代作、木彫二王并ニ手翰箱（面箱黒ぬり）を購ふ。神田辺ニ飯して帰宅。山田清作、半迂来話。島文次郎、桃木武平、饗庭与三郎の書ニ接す。三上参次、林縫之助ニ書を投す。L（ハ一オ）

#### 十一日

晴、早朝、豊川良平を訪ふて話す。中野貫一郎来訪。同苗欽治、早稲田中学予備校へ入学ニ付保証を為す。吉田半迂、伊藤台助、浦野元俊来訪。午後、賀田金三郎来訪。和泉文三身上之事を云々す。坂口五峰、石塚三郎、和泉文三へ書状を發す。大隈伯園芸談筆記を校し真島桂次郎へ郵送す。三輪潤太郎来訪。晩間、上野ニL（ハ一ウ）散策。朝倉亀を伊予紋ニ招て晚餐をとみにす。

#### 十二日

雨。日曜。三好退蔵、巽李軒、真島信城、久志本梅莊、和泉佳平の書ニ接す。森岡格雄来話。堺忠七、財界雜誌のため、図書館利用の題にて説話を乞ふ。即ち所見を筆記せしむ。真木山孟治、宮田某来訪。四谷、河手長平方

より名家書簡二帖」L（ハ二オ）を齎らし来り示す。これは先日、久志本梅莊同伴、四谷ニ一見之もの也。家蔵の書翰と重複少からされとも終に購入、四十四通にて価二百十五円也。大東義澈の旧蔵と云ふ。真島信城ニ書を投す。佐藤正十郎の来書ニ接す。文三、賀田の紹介にて村上彰一を訪ふ。既ニ湯崎へ出發、不遇。

#### 十三日

雨天。坂本金吾来る。登館事務を処す。饗庭篁村、水谷不倒来館。刊」L（ハ二ウ）行会ニ於て、馬琴未刊書を出版ニ付、実物ニ就て打合を為す。久志本、三輪、児機等の来翰ニ接す。又、前島男より来書あり。晩間三省堂編輯主任斎藤精輔来訪。早稲田図書借出之事ニ付、打合をなして去る。高田半峰より来書あり。病氣快方之趣を伝へ来る。朝倉亀三の書ニ接す。真島信城へ書状を發す。松浦伯の計に接す。L（ハ二オ）

#### 十四日

陰。学生松本某、故小西孝太郎（英国大使館二等書記官）遺書寄托之件ニ付来訪。登館、事を処し、運動会の景況

を一覧の上、去つて刊行会ニ至り、林、山田と印刷上之件ニ付協議す。饗庭篁村、重野成斎ニ書を投ず。日比谷公園ニ散策し、夕刻より、日本俱樂部ニ於て、坪谷善四郎の帰朝を祝するため、金曜會員相会す。余も亦臨む。」

(六二四)

## 十五日

陰。今朝、高田を訪ひ病氣見舞をなし、正午迄談笑す。和泉文三、一身上之事ニ付、賀田直治へ依頼状を發す。

江部淳夫來訪、昂之學事ニ関し依頼を為す。午後、下谷金杉邸ニ宗家主人を訪ふ。近日病臥ニ付、見舞を兼久潤を叙す。薄暮、上野の旗亭ニ晚餐をしたため夜に入り帰宅。饗庭篁村より茶山之書翰二通を贈らる。不在中、下林來訪。」

(六四五)

## 十六日

晴。登館、事務を処す。午後より高木方を訪ふて、不用品を売却し、南京金欄手赤茶碗五客を購ふ。琳琅閣を訪ふて、高芙蓉之書翰外十数通を購ふ。夕刻より伊予紋方ニ刊行会編輯員觀桜の宴を催ふす。夜深けて帰宅。中野

平弥、三輪潤等の書ニ接す。

## 十七日

」(六四ウ)

晴。赤堀又次郎、山田清作來訪。大隈伯、足利地方へ出張ニ付、余にも同行セよと勧めらる。即行くことに決す。出發之日、未定也。三輪、桑田正へ書状を發す。半辻妻、西京より歸來、笥子を贈らる。羽田智証、郵船会社、行政訴訟云々に付、來談あり。中野貫一郎の來翰ニ接す。風邪之氣味にて、午後全く蔭中に在り。

## 十八日

」(六五オ)

快晴。感冒愈ゆ。早朝、牧野静斎を訪ふて、先考墓誌の相談を為す。又吉田震郷を訪ふて話す。午後上野ニ散策して歸へる。不在中、阿部蘇春來訪。半日閑居、隨筆をものして悶を遣る。三輪潤太郎來訪。小柴卯之七より、越後産の梨子を贈らる。赤堀の答書ニ接す。

## 十九日 晴

晴。半辻、大辻の画幅を齎らし來り見す。」(六五ウ) 梅の印材五顆を贈らる。矢野太郎、湯川豊策(越後笹山村、量次郎仲)、真島信城紹介にて來訪。郷人植村広蔵、矢野太郎



来訪。三輪より使<sub>ニ</sub>付画幅、銅器類十二点相渡す。森岡

格雄来訪、江森泰吉宛添書を与ふ。午後より松浦伯葬式

ニ付、染井の斎場ニ臨む。序ニ王子の桜を見る。花は半

バ残したれども、満地人を以つて充填し、雑岡云はん方

なし。関栄太郎の書ニ接す。書翰目録<sub>（六六五）</sub>を修む。

## 二十日

好晴。羽田智証之為め、堀達を郵船会社ニ訪ふて話す。

刊行会并ニ高木骨董店ニ立寄。午後、女子大学之創立七

年式（晚香寮香雪館新築落成式を兼）ニ臨む。児機の書

ニ接す。朝倉無声より名家藏書印影二三十点贈らる。大

木操、桑田春風の書ニ接す。<sub>（六六六）</sub>

## 二十一日

快晴。山田清作来訪。内外印刷会社の状況を云々す。金

貳百円受取。洛城、震郷来話。三省堂主人亀井忠一、斎

藤精輔来訪。図書利用之件并ニ図書館へ寄付之事を云々

して去る。桑田正、羽田智証ニ書を与ふ。琳琅閣ニ俗曲

を彙纂せる稿本数十冊を購ふ。此頃来、手に入れんと心

懸居る樂器を某店ニ観て帰へる。吉<sub>（六七）</sub>田半迂来訪、

又、不在中、桑田春風来訪あり。

## 二十二日

晴。暴風。阿部蘇春来訪。近製の画を贈らる。羽田智証

来訪、郵船会社の件を云々す。高木一來り、かねて余か

懇望之大雅堂書翰手に入りたりとて示す。中山高陽の書

翰と共に併せ購入。登館事務を見る。亡弟末女、新潟へ

遣し置く処、先方不如意之為、此<sub>（六七）</sub>程東京へ戻り、

自今余の家ニ養育する事ニ決す。

## 二十三日

雨。日清保險会社募集員有根純来訪。大丸の杉山義雄ニ

紹介状を与ふ。山田清作来り印刷会社の事を云々す。小

林堅三来り館務を協議して去る。同人叔父小林勇作より

物を贈らる。佐渡の深井康邦の書ニ接す。同所図書館の

ことにつき余の尽力<sub>（六八）</sub>を多とし、佐渡産銅器を贈る

旨申来る。品物未達。和田万吉、紀淑雄ニ書を投す。先

考の墓銘を揮毫す。午後より高木方を訪ふて、三十余円

の払を為す。残金貳十七円未払。帰宅後広田金松、書画

を齎らし来り示す。上代経文の張込帖、初代豊国画団十



郎賛入之帖并ニ団十郎暫の画（豊国）三代画賛の幅を購ふ。（六八九）

## 二十四日

晴。赤堀又次郎来訪。刊行会ニ至り事務を処す。内外印刷大マゴツキニ付印刷上の事ニ関し、林、相沢と協議す。和田万吉、内藤席次郎の書ニ接す。内藤より騰写料十円送り遣す。不在中、島田一峰、文三来訪。坂本嘉治馬ニ書を投す。興津ニ転地加養中の半峰ニ書を寄す。夜に入り校友鈴木己千蔵（読売社員）来話。（六九七）

## 二十五日

快晴。児機より徴兵検査の結果、乙種合格と報じ来る。相沢敏太郎、牧野謙次郎ニ書を投す。半迂来訪、上野図書館ニ朝倉を訪ふて話し、又国書刊行会用図書を検す。松金ニ飯して帰へる。富山房の返書ニ接す（鴻池銀行より借入金延期之事ニ関す）。午後、白勢正訓使を遣して弟友弥の爲め、真島桂次郎三女を貰らひ受けたし云々の儀ニ付頼談を受く。桑田春風（六九七）来訪、消息展覧会を開くの件ニ付協議し、余より数十巻の書翰を示す。晚餐を

与にして別る。富山房へ千五百円之約束手形并ニ割引料廿四円余を為持遣し、鴻池銀行へ借換え紹介を依頼す。

## 二十六日

晴。午前七時四十五分、両国停車場発東武鉄道ニて大隈伯随、足利へ向け発す。此日清国公使李家駒、清国（モロ）大臣達寿も同行。天野戸水、下村正太郎等三十余名随従、午前十時半足利着、歓迎盛んなり。左の順序ニ従ひ臨場。

白石山房（田崎草雲遺屋）休憩

歓迎会（足利公園ニ於て）

昼食（足利銀行楼上）

聖廟参拝、古書展覧

木村浅七工場（輸出向織物）参観

講演会（午後二時宝本舎ニ於て）

戸水寛人、清国兩大臣、此日帰京。大隈伯、戸叶彦平別邸ニ投宿。余は三（モロ）枝、執行、田中と鑓阿寺前足利館ニ投ず。今夜旅館ニ懇親会を開く。余、足利学校保存ニ関し一場の演説を為す。

廿七日

雨。九時、一行鑊阿寺ニ赴き、寺什の陳列を觀る。大隈伯は山保工場を參觀し、足利高等小学校ニ於て、学生ニ訓示演説あり。余は寺を辞して後、足利学校ニ相庭古雲を訪ふ。「<sup>七二〇</sup>不在につき其の居を訪ふて、図書館協會之事、田崎草雲の事などを談話して、正午、足利銀行ニ抵る。昨日のこつく楼上ニ於て、午餐の饗を受け、それより足利燃糸会社の工場を參觀し、二時二十分の汽車にて伯一行と共に歸東、晚間家ニ歸へる。機、徴兵乙種編入之件ニ付真島信城、石塚三郎の書ニ接す。佐渡郡長より贈り越せる琢齋作銅鉞領掌。高沢寿より鰹」(七二〇)節、木村糸市よりバナナを贈らる。本日亡弟遺児キンを引取る。

廿八日

雨。山田清作、吉田半迂來訪。登館事務を見る。三省堂の齋藤、田内某來訪。今後圖書を貸付くるに付協議す。執行弘道來訪。高田學長病氣全快、登校ニ付話す。大内青巒より、小野梓紀念圖書云々ニ付、高田より談示あり。帰宅後大丸屋店主來訪。「<sup>七二一</sup>又、羽田智証來り話す。木

村糸市の書ニ接す。小河滋次郎、中桐確太郎、清国へ招聘を受け不日出発ニ付、同人富士軒ニ送別会を開く。余も又与る。深井康邦、真島信城ニ書を投す。関達二來訪、反物を贈らる。

廿九日

曇、冷。豚児之件ニ付、新発田の川田樸吉ニ礼状を發す。森岡格雄、吉田半迂、山田清作來訪。牧野靜」(七二二)齋を訪ふて、先考墓誌の相談を遂げ、名家書簡二通申受く。午後登館、事務を見、大隈伯を訪ふて話す。不在中、久志本常幸來る。又郷人、湯川豊次郎來訪、物を贈らる。江部淳夫來話。辻新次を訪ふ、不遇。上野ニ飯して帰宅。桂湖村來訪。

三十日

晴。久志本常幸來訪。蘭隅長文の「<sup>七二三</sup>書翰を購入。半迂來訪。久志本ニ半迂刻印を贈る。尚学会貯金を早稲田図書館へ申受るの件ニ関し、辻新次を訪ふて話し、其の承諾を得。音楽学校ニ湯原校長を訪ふて、早稲田図書館ニ音楽会を催すの件ニ付打合をなす。東京市役所の稲葉

包通、大隈伯ニ演説を請ふの件ニ付来訪あり。賀田直治、三輪潤太郎の書ニ接す。斎藤恒蔵、巽李軒ニ書を与ふ。明後日おしほ帰国ニ付、先考<sup>(七三ウ)</sup>の墓誌銘を托す。又、丹呉翁宛書を托す。登館事務を見る。機、山田清作の書来る。

## 五月

### 一日

晴。羽田智証、朝倉亀三の書に接す。菊池大麓を訪ふて、尚学会資金を早稲田へ申受る件ニ付協議す。島田翰来訪。登館事務を見る。大内<sup>(七四オ)</sup>青巒、内藤席次郎、木村衆市に書を投す。選挙の事ニ関し新発田の青木維三郎より来簡あり。湯原元一ニ書を与ふ。斎藤恒蔵の書ニ接す。山田清作、森岡格雄来話。

### 二日

晴。市役所の稲葉包通より、大隈伯招待の件ニ付来状あり。本日、昂を逗子の開成中学寄宿舎へ入れる。江部同行。三恵五江、半迂同伴にて来訪。恒四<sup>(七四ウ)</sup>郎、□之

身上之事ニ付来る。下谷ニ有名なる楽器、何人か懇望しても譲らざりしが、終に余の手に歸す。近頃の一快事也。久しく行かざりし墨堤の逶迤。錦亭、けふは開業十年の記念日なりとて騒ぎ居る所へ飛び込み、晚餐をしたため帰宅。機、紫安新九郎の書到る。三省堂の事務員田内八百九万来訪。

### 三日

（七五オ）

晴。日曜。三省堂の田内、辻川、朝倉、大木操来訪。水谷弓彦の書ニ接す。前島男より明夕越後出身者を両三輩招くに付き、余にも来れと案内あり。羽田智証より依頼の碑文篆額出来に付、使を以て為持遣す。午後より東儀と共に坪内を訪ふて、近日図書館の収入之為開催の音楽会出し物并ニ予算につき協議す。南葵文庫へ書を投す。夜来大雨あり。<sup>(七五ウ)</sup>

### 四日

雨。図書館ニ簡して事を処す。真島信城より来信あり。白勢家より申込縁談之事を云々す。青木維三郎ニ答ふ。三恵五江、吉田半迂ニ天野為之宛紹介状を与ふ。前島男

より書状来り、今夕招待の時刻を申来る。山田清作来訪、弘文館の近状を云々す。刊行会の前途は寧ろ弘文館と手を分つ方可然と決し細書を認め、専使を遣す。江部淳夫来話。午後より南葵<sup>（七六六）</sup>文庫ニ斎藤勇見彦、橋井清五郎を訪ふて、文庫協会々名の事を協議す。偶々徳川頼倫侯来館、面謁二時間程談話を交換す。夕刻より竹村良貞、坪谷善四郎と共に前島男ニ招かれ饗応を受く。不在中林縫、相沢来訪。稲葉包通も来る。長祐之、相庭朋厚（足利文庫）、山田清作等の書ニ接す。

## 五日

「（七六ウ）」

晴。山田清作来訪。辻川武之進、韓天寿山水幅を齎らし来り見す。外ニ梧竹大幅、雨森芳洲の二幅ニ対し交換ニ和亭の幅を遣す。加藤万作ニ音楽会之事を云々す。林縫之助来り、刊行会ニ対し、弘文館の不行届を謝す。午後より登館。三省堂編輯員ニ図書を示し、一時より四時ニ到る。本日

聖上より早稲田大学へ三万円の下賜金あり。これは大隈総長多年<sup>（七七セ）</sup>育英の事ニ従事し、成績顕著なり、今又

更らに事業を拡張することを聞し召され賜はりたる也。天恩感激、措く所を知らず。三輪潤太郎ニ預り品を返す。又蔵幅売却代金十八円相渡す。柴安新九郎の書ニ接す。読売記者小島静三郎来訪。島田翰来訪。

## 六日

晴。山田清作、吉田半迂、梅沢精一来<sup>（七七ウ）</sup>訪。梅沢発行之雑誌美術評論の爲の一場の談話をなし、筆記せしむ。中条正夫（森岡格雄改名）来訪。島田翰の書ニ接す。南葵文庫より申出たる文庫協会改名の件ニ付、和田万吉を帝国大学ニ訪ふ。例の楽器を見て帰へる。学校より下賜金ニ付、来る九日午後維持員会開会之旨を通知し来る。

真島信城へ反物を郵送す。<sup>（七八セ）</sup>

## 七日

晴。北堂の書ニ接す。又中条正夫の書来る。東儀井ニ館員を招き図書館資金収入の目的を以て、音楽会を開くの件ニ付打合を爲す。相沢敏太郎来訪、刊行会前途之事を云々す。中井敬所ニ書を投ず。琳琅閣ニ図書を購ひ、池畔の某亭ニ飯して帰へる。



八日

晴、風。広田金松、山田清作来訪。久<sup>（七八九）</sup>志本梅溪<sup>ニ</sup>書簡代七円遣す。登館事務を処す。坪内逍遙と音楽会之事を協議す。読売記者小島某来訪、弘文館国史辞典の内情を聴取して去る。佐藤正十郎、一身上之事ニ付来訪。仙台版宋本覆刻左伝版本、図書館へ寄贈の件ニ付、琳琅閣より来書あり。

九日

曇天。中条正夫、江部淳夫来話。中井<sup>（七九七）</sup>敬所の返書ニ接す。浜村蔵六来訪、早稲田文庫の銅印成る。山田清作、弘文館ニ対する印刷進行之条約書案を携え来る。協議の後去る。午後より総長邸ニ於て基金募集専務委員会を開き、引続き維持委員会を開き学長より恩賜金の報告あり。恩賜金保管の件、管理委員囑托の件、募集の方略等を協議し、恩賜を祝するためニ三鞭の盃を挙げて散す。夕刻より文庫協会々名の件ニ付<sup>（七九七）</sup>旧評議員和田万吉、西村竹間、坂本四方太、斎藤勇見彦、<sup>（テキマツ）</sup>平蔵を多賀羅亭ニ会し、熟談を遂く。結局陳情委員を南葵文庫へ

遣す事、機を見て会長引退の事を協議して別る。坪内大造より音楽会の出し物に關し云々の報あり。

十日

日曜。晴。赤堀又次郎、山田清作、小林堅三、室孝吉交々来訪。三木武<sup>（八〇七）</sup>吉、一身上之事ニ付来訪。島恒四郎徴兵検査之為帰郷之処今朝帰京。第二乙種合格之旨を報す。佐藤正十郎、国光生命保険へ入社之趣報し来る。音楽会之事ニ付、坪内逍遙と往復す。今夜吉熊ニ於て春季職員慰勞の会あり。余も出席。音楽会開会之事を席上ニ公表す。

十一日

雨。稲葉包通来訪。朝井秀実を<sup>（八〇七）</sup>内閣記録課ニ訪ひ、其の案内にて内閣文庫を見る。蔵書六庫に充ち、流石ニ蔵書ニ富めり。特別図書を蔵する書庫ニ、正統本朝通鑑の原本を見る。庫中の尤物也。又宋元版五六種を見る。燕石十種続篇の材料を得んと百万漁りしも、此種の図書は此文庫ニ幾んど皆無の有様にて、一も得る所なし。十二時過辭して琳琅閣ニ至り宋版覆刻左伝版本、早稲田



へ寄贈之件ニ付、協議す。又校<sup>（八一〇）</sup>齋手入本帝範臣軌四冊を館之爲めに購ふ。例の樂器を弄し夕刻帰宅。山田清作の書ニ接す。兎機の書到る。

## 十二日

雨。阿部蘇春、安田恭吾来訪。安田より象山の書翰を示さる。吉川弘文館ニ至り、林、相沢ニ面談して、刊行会前途ニつき談判を爲し、契約書案を作り、双方協議成る。夕刻より林、相沢と万安ニ晚餐を共<sup>（八一〇）</sup>にし深更家ニ歸へる。不在中昆田文来訪。和泉文三の身上ニ付云々し去る。浜村藏六、三輪潤の書ニ接す。又島田翰の書ニ接す。今日館之爲、林より有職故実ニ関する絵巻物四百余巻を館之爲購ふ。これは一ノ関本間百里の旧藏にて、今回同家より出たるもの也。

## 十三日

（八一〇）

晴。広田金松来り書画骨董を見さる。紫安新九郎上京、一身上之事を云々す。登館事務を見る。本日より貴重書整理に着手す。羽田より依頼之件ニ付き、郵船会社之堀達より来書あり。羽田へ転致す。文庫協会評議員承諾の

事を云々し、大坂の今井貫一より来翰あり。桂湖村と話。昆田を古河事務所ニ訪ふて、賀田へ依頼之文三一身上之件ニ付協議す。和泉佳平、台連より帰国の途次<sup>（八一〇）</sup>来訪。真島信城より礼状来る。

## 十四日

晴。文三一身上之事ニ付、賀田金三郎を麻布ニ訪ふ。不在ニ付内人ニ伝言を托してかへる。今朝、和泉信平を逗子へ遣し、昴下宿之事を渡辺魁ニ依頼せしむ。登館事務を見る。桂湖邨より徂徠の印譜を贈らる。三輪潤太郎より使来る。道具代金残額を交付す。水谷不倒を訪ふて、其の蔵書<sup>（八一〇）</sup>を観る。館之爲蔵書全部三千五百冊を千二百円にて買受るの交渉をなし事決す。韓天寿山水の幅、今泉雄作ニ鑑定を乞ひしに、真蹟なる旨答書あり。鎌田妻、江部妻来る。

## 十五日

晴。賀田直治より文三身上之事を云々し来る。文三へ転送す。山田清作来話。東儀井ニ館員を宅へ会して、音楽会の打合せを爲す。在長岡の機へ五<sup>（八一〇）</sup>十円送金、帰

宅を促す。登館事務を処す。又会計監査会ニ臨み監査を為す。琳琅閣ニ至り、館之為水谷藏書購入之件を協議す。夜に入り島田翰来話。

#### 十六日

晴。図書譲受之事ニ関し、水谷より来書あり。昂、今朝逗子へ行く。渡辺魁へ書状為持、同宿を托す。稲葉包通、大隈伯招待之件ニ付来」(八四ウ)話。相沢敏太郎、斎藤書店、水谷、桑田春風へ書を投す。午後より学校中庭ニ於て闔校の学生を会し、恩賜金ニ対し感謝式を行ふ。総長、学長の演説あり。大隈伯陛下の万歳を三唱あり。衆皆和して散ず。本日より音楽会之事ニ着手す。文三来る。今夜上野精養軒ニ校友を会して感謝式を行ふ。同時刻、越佐会あり、双方かけ持にて忙甚し」(八四ウ)

#### 十七日

雨。日曜。朝来佐藤正十郎。広田金松、三恵五江、吉田半迁来訪。相沢敏太郎、村山亀太郎を同伴来訪。物を贈らる。間島景耀又来る。午後より外出、例の音楽骨董を弄し半日を消す。和田万吉の書ニ接す。桑田正、渡辺魁

の書到る。

#### 十八日

雨齋。図書館ニ簡して事を処す。水谷」(八五ウ)不倒来訪。辻川武之進、中条正夫ニ書を投す。中条正夫、安田恭吾、山田清作来訪。山田と刊行会の前途を協議す。弘文館との契約書ニ調印を為す。吉田半迁来訪。飛鴻堂印譜中の模印を托し置きしが奏刀見さる、模刻甚佳也。午後より水谷を訪ひ、又琳琅閣を訪ふて水谷図書購入之事を決す。今夜伊予紋ニ音楽会之件ニ付、各新聞記者を招き披露の宴を催す。主人役ニ余と東儀出」(八五ウ)席す。昂の書来る。

#### 十九日

晴。高田の病を問ふ。登館事務を見る。水谷へ図書代金之内六百円相渡す。午後より中学の評議員会ニ臨む。大槻如電の書ニ接す。昂又脚氣之為、逗子より帰へる。

#### 二十日

晴。本日印刷会社へ式百五十円之払込を為す。築地新栄町移転後、初めて」(八六ウ)刊行会編纂所ニ至り、二、三緊

急の事を処し、午後局員一同と江木方ニ撮影す。高木骨董店を訪ひ、足利時代重ね箱（青貝箱入）を購ふ。価十円。池之端ニ休憩、例の楽器を弄して帰へる。おしほ、越後より帰へる。東儀季治、水谷弓彦の書ニ接す。夜に入り関口、加藤、和泉来話。昂之事ニ関し渡辺魁ニ書を投す。和田万吉より来翰あり。」（八六七）

## 二十一日

晴。辻川武之進、佐藤正十郎来訪。登館事務を見る。大隈伯を訪ふて話す。森岡格雄の書ニ接す。

## 二十二日

晴、後曇。水谷弓彦来訪。社寺名所刷物古版張込帖二巻を恵まる。山田清作来訪、刊行会の事を云々して去る。踵て丹呉老人来訪、午餐を共にして別る。午後音楽学校ニ湯（ハセオ）原校長を訪ふて、廿四日音楽会の打合を為す。又坪内より来翰あり行く。名古屋より西川嘉義并ニ門人到着ニ付、今日坪内舞台ニ於て試演を為す。吉住吉三郎其他地かたも出席、夕刻迄観覧の後帰宅。

## 二十三日

刻翻「春城日誌」（一〇） 明治四十一年一月

晴、風。早朝より東儀、加藤、和泉等を宅ニ招き、音楽会の事を協議し、同伴ニ付大隈伯夫人を訪問し、終日図書館（ハセウ）ニ在りて事務を見る。本間健四郎、西邨竹間の書ニ接す。建部遯吾北堂の計ニ接す。児玉茂右衛門（改名清貞）の書ニ接す。建部へ吊状を贈る。富塚格雄来訪。

## 二十四日

晴。早朝二、三の客あり。十時より音楽学校に到り、午後開会之音楽会之準備を為す。定刻より大隈伯夫妻を始め八百余の来会あり。聴（ハハオ）衆堂ニ溢る。予定の如く演奏午後五時閉会す。此会は図書館の収入を目的として、開会せるもの。坪内并ニ音楽学校々長の尽力与つて力あり。閉会后、石川千代松、横山又次郎の洋行を送らんとて、早稲田の同人精養軒ニ晚餐会を開く。渡辺魁、児機、佐藤伊三郎より来翰あり。

## 二十五日

晴。坂口五峰、上京来訪。山田清作、吉田半迂来る。登館、音楽会の残務を処す。本間十三郎来訪、物を贈らる。午後池之端ニ飯し、八幸と快談。夕刻帰宅。

## 二十六日

快晴。坪内逍遙方ニ西川嘉義を訪ふて演芸の謝礼を為す。  
清国大官、図書館參觀のため来る。稀觀書を陳列して其  
の展覧ニ供す。午時<sup>（八九才）</sup>大官一行と共に大隈邸ニ午餐  
を与にす。音楽会之残務を処す。本日宅大掃除を行ふ。  
午後より五峰ニ招かれて回向院の相撲を観る。後五峰并  
ニ同行者を伴ふて、上野の常盤華壇ニ晚餐を喫して別る。  
本日不在中、蒲生庄七来訪。又深更羽田智証来話。中条  
正夫の来書ニ接す。

## 二十七日

雨。林縫之助、牧野謙次郎、山西清吉<sup>（八九才）</sup>ニ書を投  
す。登館事務を見る。余の序文をもつて越後伝説四十  
七不思議十部、著者中原育堂より贈らる。午後より学  
長と第二期学校発展基金募集ニ関し方針を内議し夕刻に  
至る。不在中、丹呉老人来訪あり。玉鉾會長千家尊福よ  
り、来月二日皇典講究所ニ於て、東満、真淵、宣長、篤  
胤四家の祭典執行ニ付案内状来る。佐藤伊三郎より来翰  
あり。<sup>（九〇才）</sup>

## 二十八日

曇、後雨。本日丹呉老人帰国ニ付、早朝旅宿ニ訪問す。  
真島桂次郎より鱒を贈らる。不在中、寺田弘、田代亮介  
来訪。午後より在宅、雨窓無聊、隨筆を作つて悶を遣る。  
相沢敏太郎、在京都幸田成行ニ書を投す。夜に入り中条  
正夫、一身上之事ニ付来訪。金十円遣す。寺田弘の書ニ  
接す。

## 二十九日

雨。館員を招き音楽会の後勘定を為す。半迂来り、印話  
を為す。鄭道昭の拓本を示す。山田清作来訪。近藤正斎  
の逸事を図書館雑誌に載せんとて、半日筆作ニ従事す。  
田代亮介来り内子の病を診す。朝倉亀三の書来る。佐藤  
伊三郎、寺田弘の書ニ接す。校友永島富三郎夜ニ入り来  
話。

## 三十日

陰。三惠五江来話。和田万吉より<sup>（九一才）</sup>来書あり。文庫  
協会会名の件ニ付、南葵訪門之事を云々す。直ニ答ふ。  
中条正夫の書来る。真島桂次郎へ鱒の謝状を出す。幸田

露伴ニ書を投ず。登館事務を処す。佐渡山西清吉より預り之画幅二、小包にて返す。巖谷小波より六月六日お伽祭案内状来る。今夜、台湾の新民政長官大島久満次を学長と共に京橋万竜ニ招飲。木邨糸市、石渡敏一、昆田文次郎も同席、学校出」(九一ウ)身者を台湾官途ニ採用を受けん打合之為也。

三十一日

雨後晴。朝来朝倉亀三、小柴卯之七、広田金松等来話。午後より散策、池之端ニ八英ニ会し晚間家ニ歸へる。佐藤伊三郎、広田金松の書ニ接す。斎藤和太郎妻の訃到る。

春城日誌

特  
イ 4  
1919  
550

明治四十一年  
六月一日以降

六月

一日

曇天。広田金松来り骨董を示さる。佐藤正十郎来り、兄伊三郎品行ニ付縷々説き憤慨す。登館事務を処す。第二期基金募集ニ関する書翰文二通を草案す。一は学校より前回の寄付者に対し、一は中央校友会より地方校友に与ふる者、静嘉文庫の北」(二オ)沢隆八より岩崎家碩宋楼圖書購入の仕末書を送り来る。幸田露伴の書到る。木村糸市ニ書を与ふ。



## 二日

曇。半迂ニ囑したる草々不一の印成る。山田清作と刊行会の事を話す。登館事務を話す。学長と基金募集の打合を為す。渋谷愛、外国人を伴ふて来り、伯ニ紹介を乞ふ。即相携えて伯ニ謁し、後図書館を縦覧せしむ。帰宅後半」  
ニ峰来訪。同伴新橋ニ至り、大橋新太郎の洋行を送る。木村糸市の答書を得。岡山同窓会より大島久満次台湾民政長官となりたるを賀せんとして、七日菊隅ニ宴会を開くの通知あり。児機の手ニ接す。

## 三日

晴、暑熱漸く加はる。早朝、昆田を訪ひ、相携えて大島久満次を築地旅館ニ訪ふて、早稲田卒業生登庸之事」ニの事を協議す。堀達を郵船会社ニ訪ふ、不在。転じて和田万吉を帝国大学図書館ニ訪ひ、会名問題に付余の進退問題を協議す。和田、坂本（四方太）の慰諭ニ依り、時機を見て辞任を条件とし（余の他日辞せんとする場合に於ては引止めざることを云ふ）、此場合会長留任の事ニ決す。上野ニ飯し帰途高木方ニ立寄り、池田孤邨の遺什を

購ふ。不在中、稲葉包通来る。文三并ニ江部ニ書を投ず。明日、講師遠」ニ足会の案内、十日上野精養軒ニ於て恩賜金祝賀を兼、講師招待会の案内状学校より来る。大江乙来訪。

## 四日

快晴。朝倉亀三の手ニ接す。森岡格雄来話。基金募集ニ付、中央校友会より地方校友会ニ与ふる第二書簡（協議事項を載せたる長簡）を起草し、携えて学長を訪ふて大略を協議し、登校。更らに学長、幹事と共に基金募集方針の」ニ打合を為す。木村糸市の手ニ接す。町田忠治ニ書を与へて、卒業生の仕末方を依頼す。午後、上野切り通し辺を散策し、骨董舗ニ印材并ニ支那製印竈筒を購ふ。不在中文三来る。今夜伊勢梅ニ晚餐をしたため家ニ歸へる。

## 五日

曇天。村山亀一郎来訪。踵て吉田半迂来る。万屋来る。不用の書籍を売」ニ却す。午後より外出、日本橋筋ニ物を購ひ、西化屋ニ夏外套を注文し、刊行会に至り事務を

見る。薄暮家ニ歸へる。不在中田代亮介来り、内子の病を診す。新発田の書肆齋藤治吉、佐藤嘉之の添書を携へ来り見る。今夜九時、機長岡より歸へる。西村竹間より余の図書館協会长辞任ニ関し、留任を勧告し来る。

#### 六日

〔四才〕

晴。出版部員某、外国人サヲナル遺書の件ニ付来り話す。登館事務を処し午後ニ至る。文三来る。台湾鉄道へ転勤之事を勧め決す。今夜清風亭ニ校友会の委員会を開らき、基金募集の事を協議す。余の立案せる書簡案、并ニ協議案異議なく決す。

#### 七日

日曜、晴。山田清作、小林堅三来話。〔四才〕高木方を訪ふて骨董を見る。西村竹間、堀紫山、賀田金三郎、賀田直治、中井敬所ニ書を与ふ。今夜、菊隅楼ニ於て、岡山同窓会員相会し、会員大島久満次、台湾民政長官ニ昇任ニ付祝宴を催す。十時散会。正玄早成、不在中來訪。

#### 八日

雨。名古屋の織田かき（西川嘉義之事）、木〔五才〕村桑市

より來書あり。又広田金松、和田万吉の書到る。おしほ來話。登館事務を見る。下村正太郎、桑田春風ニ書を投す。半迂來話。佐渡の山西清吉より來簡あり。午後より雷鳴あり、雹降る。其大きさ団子の如し。一時天地晦暝。雨後、背水録（学校第二計画記録）を筆し夜ニ入る。印人小林素江（緑雲門人）、赤堀の紹介にて来り見る。

#### 九日

〔五才〕

晴。佐藤正十郎、齋藤治吉（新発田の書肆）、高木一、杉原讓（東京市事務員）、正玄早成交々来る。浜村蔵六、香川県出先よりの発信ニ接す。登館事務を見る。広井一來訪、夏期新潟県校友会之件ニ付云々す。南葵文庫の齋藤勇見彦來訪。余の図書館協会长辞任の件ニ付、留任を勧告して去る。北海道へ赴き居りし喜代四帰京、來訪。下村正太郎の書ニ接す。晩間、杉山三郊、島田篁村遺書売〔六才〕却云々ニ付來話。佐藤伊三郎の書到る。

#### 十日

曇天。政治科得業生菅田元成、記念アルバムを作るに付余の写真を借らんことをもとむ。即貸付す。山田清作、

刊行会の事ニ付、来談。午後より旅行タイムスの為「宿屋五十不快」と題する稿を起し、半日を消す。台湾の直治より十日出発、上京の趣報（六）に來る。越智修吉より、渡台以来の模様詳細報に來る。二、三の雜信に接す。和泉五郎より北海道のニシンを贈り來る。今夜、上野精養軒ニ於て講師を招待し、恩賜の祝賀をなし、かねて基金募集ニ付、学校より依頼する所あり。伯も出席ありたり。おしほより金貳百元毎月四円の利子を与ふる約にて、満一ヶ年間預る。（七）

#### 十一日

晴。広田金松来話。登館事務を見る。宿屋の不快を書きつゝ、本日音楽会の決算を為す。預り金、学校へ納付。

#### 十二日

小雨。市吏員、山田清作、吉田半迂、保田の菅井正蔵等交々來る。菅井のため額面十數紙を揮毫、半日を消す。新議員長場龍太郎来訪。物（八）を贈らる。前島男爵より印譜を贈らる。在香川県村浜藏六（九）の電報到る。直ニ正玄早成へ郵送す。廿六日、日清印刷会社第三回總會の通知

書來る。

#### 十三日

雨。正玄早成、玉印の事ニ付来話。幸田露伴を寺島村ニ訪ひ、新群書類從狂歌部の事ニ付協議す。午時、英堂を池之端ニ訪ひ、二時半一ツ橋学士会ニ（一〇）於て図書館協會之例会を開く。席上、坪谷善四郎の欧米図書館視察談、和田万吉の刊年を目録ニ付するの事ニつき、演説あり。食卓上、余も一場の演説を試み散会す。今日会するもの、四十余名、近来漸く盛会なり。在香川縣藏六より、七百五十円電報為替來る。

#### 十四日

晴。日曜。浜村藏六の請求ニ依り青国乾（一〇）隆帝第二皇后璽、正玄早成より購入、七百五十円渡済。品は浜村出先香川縣大西行礼方へ小包ニ而發送す。建部遯吾、市島初之丞を伴ふて來り見る。半迂を招へて事を托す。手紙展覽會之件ニ付、和泉をして桑田春風を訪問せしむ。次年度予算之事ニ付、小林堅三来談あり。審美書院事務員渡部某、織田一の紹介状を齎らし來訪。越後の富豪三、

四に紹介状を与ふ。校友戸田某、坂本三郎の紹介にて来訪。（九才）三輪潤太郎妻の計到る。

## 十五日

曇天。朝来坂口五峰、桑田春風、本田信教、戸田慈次、山田清作交々来訪。応接ニ忙殺せらる。午後より登館事務を処す。夕刻より大隈伯邸に於て、基金募集専務委員会を開き、募集方法を協議す。

## 十六日

（九才）

朝来むしあつし。長場龍太郎、吉田半迂、戸田慈次、正玄早成来話。上野ニ開会之日本美術協会展覧会を見る。今回は調度を主題として陳列しあり。見るべきもの少からす。午後英堂ニ会し帰宅。五時過、雷鳴ニ次ぎ驟雨来る。有賀長雄より、来廿一日、多摩川鮎漁の案内来る。

## 十七日

午前晴、午後少雨。今朝九時、賀田直（二〇才）治台湾より帰着につき、二児を伴ふて新橋に出迎ふ。十時より駒込吉祥寺ニ執行之川上眉山の葬式に臨む。眉山は煩悶の爲自殺を遂けたる也。惜しむべき事共也。半峰と共に同寺

境内の岡山梧堂の墓を展し、本郷に於て午餐を与にし、同行早稲田大学ニ抵り基金募集の事を協議し、余は早稲田大学賛助員規定を草す。西条北堂へ金子入書状差出す。校賓并ニ賛助（二〇才）員ニ与ふる書翰起草す。旗野十一郎の計ニ接す。

## 十八日

雨。朝来校賓賛助員推薦状起草し、学長へ送付す。尽日家居、書翰を整理す。辻川武、島田翰来話。晩間、賀田直治より使来り。台湾の土産くさくさを贈らる。踵て直治、江部同伴来訪、置酒して別来の事を話す。（二一才）

## 十九日

晴、風。早朝、学長を訪ふて話す。旗野桜坪死去につき駒込動坂町の居を訪ふて吊問す。静嘉堂文庫を訪ふて、近かく購入せる竹添井々の宋元版并ニ古鈔本、島田篁村遺愛図書を一覽し、午後より参校。学長と校賓賛助員ニ与ふる推薦状の事等を協議す。文三来訪。

## 二十日

（二二才）

午後、驟雨あり。今朝八時、大島台湾長官出発ニ付、新



橋迄見送を為す。半迂ニ囑せし「神仙本是多情種」の印刻成る。在香川県浜邨蔵六より来書あり。故渋谷（ハヤシ）爾未亡人、三人の児女を伴ふて投水を企て遂けさりし枯事あり。同人為めに贖金を為す。余も又発起者の一人也。来る廿五日、日本俱樂部へ集会、越後ニ於ける基金募集之打合を為さん為、増田、増子、坪谷、昆田へ書状を發す。英堂ニ会す。〔二三〇〕夜に入り高等商業学校ニ於て、東京市の公演会あり。大隈伯出演ニ付余も行く。

## 二十一日

曇。日曜。終日家居。佐藤伊三郎、山田清作、羽田智証来話。浜邨蔵六ニ書を投す。基金募集勸誘状（在学生父兄并ニこれ迄学校ニ縁故あらざるものニ与ふる分）を艸す。〔二二七〕

## 二十二日

小雨。今朝大丸主人下村正太郎、洋行の途ニ上るニ付、見送を為す。半迂来り、前島男の印を示さる。広田金松、辻川武之進来訪、杉山令吉を訪ふ。不在。牧野謙を訪ふて、校賓賛助員推挙状の文案ニ付相談を為す。登館事務

を見る。又学長と予算之協議を為す。

## 二十三日

大雨。半迂来話。登館、終日事務を〔二三〇〕見る。小滝淳、杉山令吉の書ニ接す。夕刻より明進県（明）ニ於て出版部の部員会を開く。協議深更ニ及て散す。北堂より来書あり。

## 二十四日

晴。山田清作来話。林、相沢ニ書を投す。羽田の件ニ関し郵船会社の堀達ニ書を投す。登館事務を見る。直治妻、小児を伴ふて来る。朝来頭痛を感じ早く臥す。〔二三〇〕

## 二十五日

晴。夜に入り大雨あり。近日消息展覧会を開くニ付、所蔵の書翰を整理し半日を消す。午後より高木を訪ひ、又村口書店ニ立寄り、夕刻より日本俱樂部ニ高田、昆田、増田、田中、坪谷、羽田と会合して、来月高田同伴、越後へ出張、基金募集を為すニ付、其の打合を為し大体を決す。越智修吉より台湾始政紀念絵はかきを贈り〔二三〇〕くる。朝倉亀三の書ニ接す。大概如電より磐溪追遠展覧



会の案内来る。本日高木へ骨董代之内二十円払。本日図書館の本年度増加図書を調査せし処、

本年度増加

五千百九十四部 一万五千二百八十四冊

内 和漢書 四千〇六十五部 一万三千四百〇一冊

洋書 一千百二十九部 一千八百八十三冊

館藏總計

四万一千三百三十二部

十一万〇三百四十六冊

内和漢書

二万八千四百八十二部

九万一千九百九十三冊

洋書

一万二千八百五十部

一万八千三百五十三冊

二十六日

雨。吉田半迂、山田清作来訪。村口へ雑本売却之為遣す。新潟積善組合より巡回図書館実施の事を報し、且つ謝礼

を報し来る。中井敬<sup>(二五才)</sup>所の書ニ接す。硯友社より来月七日、星か岡茶寮ニ於て、川上眉山の追悼会を開く旨通知あり。英堂ニ会して半日閑話す。午後劇雨あり。山田清作の来書ニ接す。賀田直治ニ書を与ふ。

二十七日

雨。坂本嘉治馬、坂口五峰、広井一に書を投す。象山書簡鑑定を請ふ為、宮本伸ニ書を与ふ。高田学長を訪ふて学校<sup>(二五ウ)</sup>の事を話す。出版部員とアルバム調整の打合を為す。登館事務を見る。今夜木村糸市に招かれ、賀田直治、昆田文次郎、江部淳夫と万龍ニ会す。深更家ニ帰へる。

二十八日

晴。日曜。早朝、山田清作来訪。富山房ニ坂本嘉治馬を訪ふて、鴻池銀行より借入金ニ付協議す。上野美術協会列品室ニ開会せる<sup>(二六才)</sup>大槻磐溪三十年追遠展覽会を見る。十一時より上野精養軒ニ於て文明協会招待会あり。出席。琳琅閣ニ立寄帰宅。夜来雨あり。

二十九日

雨。広田金松并ニ長岡の骨董屋某、朝来骨董を齎らし来り示す。水府名家書翰一卷を購ふ。半迂来訪。登館事務を処す。桑田春風、前島男、等へ書を投す。又中井敬所、（二六ウ）村口書店ニ書を投す。

### 三十日

長岡の人村山某来り、韓天寿の書幅を見す。梅沢精一來話。登館事務を処す。午後より維持員会ニ臨み、四十一年度予算決算其他緊要の件を協定す。不在中賀田直治、本田信教来訪。夜来雨あり。山田清作の書ニ接す。（二七オ）